

2003年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

結 義 信 画

東京大学出版

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	07	通期	4単位	生瀬 克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、大学における学習・研究に必要な論理的で明快な文章を書くための訓練が目的である。具体的には、論述式的答案やレポートを作成するための文章形式の習得を目的としている。同時に、論述形式の文章を実践的に作成してもらうことも重要な目的である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期> いろいろな種類の文章になれることから始めて、そのような文章の作成に習熟することをめざす。</p> <p><秋学期> 各講義ごとに特定のテーマを設定して、そのテーマにそった800-1000字程度の小論文を作成してもらうことで、論理的な文章の作成に習熟してもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各回ごとの参加態度の熱心さや、誠実な参加態度が求められる。当然、出席率の高さを要求することになる。それらを前提にしての「平常点重視」となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要なときに、適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	08	通期	4単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ言っておくと、本科目では、ワープロは一切使わない。一字一字刻み込むようにして文章を作って行く、そうした地道な作業に力を置く。 ワープロは便利で簡便なツールであり、これによって文章の作成は極めて容易になった。私自身もこれを簡便な道具として日々常用している。しかし簡便な分、それに反比例してそこから生み出される文章は軽くて薄っぺらなものになってしまう危険性が常につきまとう。現実問題として、誰にでも気軽に文章を作成し、公開に出来るようになったため、どうでもいようなクズ情報がネットを通して世にあふれかえっている。 もしかしたらこれは、私（深沢）の偏見かもしれない。しかし偏見であっても、本科目ではワープロ使用の文章作成は行わず、手書きの実践を繰り返すことに徹しようと思う。言葉を使い捨てにせず、一つ一つ大切に使うことで自己との対話を試みる、そうした場として本科目を設定したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>身近な題材から初めて、次第に自己の周囲に広がる社会や政治、経済や国際問題へと題材を広げていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験もレポートもない代わりに、出席を最も重視する。各人の評価はどれだけ作業（文章を書いたり口頭発表をしたり）に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>斉藤美奈子『文章読本さんへ』（講談社・2000）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>西研・森下育彦『「考える」ための小論文』（ちくま新書・1997）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	09	通 期	4 単位	藤 井 肇
[講義概要・学習目標] 自分の考えや思いを文章で表す。これが意外と難しい。うまくまとまらなかったり、書いても相手がきちんと理解してくれなかったりする。わかりやすい文章を書くにはどうしたらよいか。テーマのしぼり方、まとめ方、表現方法などを実際に書くことで具体的に学んでゆく。あわせて、ことばによるコミュニケーションのあり方なども考えてみよう。ことばの力をたいせつにしたい。	[講義計画] 課題作文の提出を求め、それぞれ添削して返す。同時に総合的に教室で講評する。毎回、授業に関する感想、意見、質問などを文章で書いてもらうので、主としてそれをもとに話を進める。			
[成績評価の方法] 課題作文の評価や出席状況などふまえて総合的に。	[参考文献] 随時、あげる。			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文(旧 論述作文(2))	10	通 期	4 単位	三浦 俊介
[講義概要・学習目標] 三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正・増補して、修了論文を書く。学生諸君の修了論文は論文集として印刷・製本する。できれば合評会も開きたい。「論述作文」で学ぶことはゼミの論文執筆や成績アップの問題だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきつと役立つだろう。本学以外に「論述作文」という講座を、少人数制度で開講している大学のことを聞いたことがない。「論述作文」は本学独自の講座である。三浦は、この、他に例のない、すばらしい講座の恩恵にあずからないのは損だと思う。担当が三浦である必要はない、とにかくできるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。	[講義計画] 講義は以下の内容で進める予定である。 1、ガイダンス(年間計画・自己紹介など) 2、原稿用紙の使い方(縦書き・横書き) 3、ワープロソフトの使用(計算機センターで) 4、レポート・論文の手順(ビデオを見て) 5、レポート・論文の構成(起承転結・双括型など) 6、事実と意見とを混同するな 7、短文のすすめ 8、逆茂木型の文章を回避せよ 9、段落意識を持て 10、重要なことを先に書くことの重要性 11、引用と要約 12、補注と参考文献 13、レポート・論文の仕上げ 毎回何らかの作業を課す予定である。			
[成績評価の方法] ① 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないと不可。 ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。 ③ ほぼ毎回の提出物も重視する。	[参考文献] 木下 是雄『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫)筑摩書房 清水幾太郎『論文の書き方』(岩波新書)岩波書店 辰濃 和男『文章の書き方』(岩波新書)岩波書店 小河原 誠『読み書きの技法』(ちくま新書)筑摩書房 古郡 廷治『文章添削トレーニング』(ちくま新書)筑摩書房 その他多数。随時紹介する。			
[教科書] 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧 論述作文 (2))	1 1	通 期	4 単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学生諸君の肉体はもう大人だが、精神はいま形成途上である。大学生生活は若者の精神形成にもっとも大事な時期であり、文章を書くことは精神形成の重要な手がかりである。このことを踏まえて、毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験、とくに内面精神の形成についてのテーマ、というように、身近な文から始まって、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。論文の勉強であるから、自分の考えを、明快に、論理的に表現できるように教えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度で書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。</p> <p>論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくること。</p> <p>そして夏休み後、この授業の終業論文を書いてもらう。時間をかけて、自分が大事だと思うテーマをじっくり完成する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間提出してもらった論文と、後期の終わりに完成する終業論文との総合結果で評価する。別に試験はおこなわない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私じしんの作文方法についての著書などを、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情 (外国人留学生用)		秋学期集中	4 単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は外国人留学生を対象とするものであり、彼らをもっとも関心を持つ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察する。日本社会についての知識をうるといよりはむしろ、なぜそういう現象があらわれるのかを授業中のディスカッションを通じて、留学生自身が考え、自分の意見を作り上げていくことをめざす。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす日本人学生にも参加を求める予定。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>時宜に応じたテーマを設定し、それに関連する新聞や雑誌の記事を読んだり、テレビ番組を見る。その後、ディスカッションを経て、レポートを書き、それを授業で発表し、さらに検証を加える。ディスカッションには日本人学生も参加して議論の幅を広げるとともに、互いの考えを知る機会とすることをめざす。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席をなによりも重視する。授業中の発言やレポートなどを総合して評価する。学期末には試験を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし。テーマに応じて授業中に言及する。使い慣れた辞書を持参すること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定はない。必要な資料は適宜教員が用意し、配付する。</p>				

「演習Ⅰ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	一ノ瀬 篤	時事経済問題解説	108
02	伊代田 光彦	経済学入門	108
03	望月 和彦	村上さんに学ぶ経済学	109
04	木村 二郎	日本経済入門	109
05	熊谷 次郎	経済学の基礎知識	110
06	佐賀 朝	現代社会の諸問題	110
07	滝田 和夫	経済思想入門	111
08	矢根 眞二	コミュニケーションから始める経済のABC	111
09	中野 端彦	セクター別に見た経済機能の役割変化を検証する	112
10	〃	経済データから経済現象の実態を探る	112
11	中村 勝之	大学の「出口」について考える	113
12	西川 憲二	経済学って何	113
13	坂 昌樹	社会のなかで生きるって、どんなこと？	114
14	藤田 香	やさしい経済学－基本のきほん	114
15	〃	やさしい経済学－基本のきほん	114
16	松尾 純	経済学部に入學したけれど…	115
17	〃	経済学部に入學したけれど…	115

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ (時事経済問題解説)	01	通 期	4単位	一ノ瀬 篤
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>不良債権、倒産、構造改革、極端な金融緩和政策の継続、日本の貿易競争力弱化の兆し、国債の累増、等々、我々を取り巻いている現実の経済は激動の時代を迎えている。この演習では、深い考察ではなく、上記のような諸問題についての概略的な知識もしくは理解のための基礎知識を身につけることを目標とする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>はじめは担当者が short lecture の形で、いくつかの話題について解説する。回が進んでくると、受講生が興味を持った新聞・雑誌記事 (のコピー) をクラスに持ち込んで、それについて概略を説明したり、不明点を提示したりする形をとりたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験を含め、数回の小テストを行う。この結果と日頃の発表や発言を総合的に勘案して最終評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本経済新聞社編『Q&A 日本経済100の常識』(日本経済新聞社、2000年) *この参考書は how to もの的な外観になっているが、経済学部生としては必携である。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ 経済学入門	02	通 期	4単位	伊代田 光 彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習は、これから経済学を学習するに当たって必要な次の3点について行う。 第1に、経済学学習に欠かすことのできない心構えについて学ぶ。経済学という学問の性格を正しく認識することが学習の出発点である。経済学の特徴を正しく把握すれば、学習に当たって必要な心構えが得られる。第2に、コンピューターは現代社会では必須とみなされるが、これに対する心理的障壁を取り除き、その基本的操作・利用に慣れることを目的とする。コンピューターの操作・利用は誰もが容易にできかつ便利なものであることがわかる。第3に、担当者の専門分野であるマクロ経済学の骨格を学習することを目標とする。所得、雇用、物価水準などが、どのような意味をもつものであり、どのようにして決まるかについて学ぶ。 これらを学ぶことを通じて、「経済学がわれわれの日常生活と密接に関連する学問分野である」ことを理解してほしい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>春学期 1 経済学はどういう学問か (教材はコピー) 2 コンピューター実習 (ワープロ、表計算、グラフ、パワーポイント、データベース等について各自の到達度を見ながらゆっくり進める)</p> <p>秋学期 1 テキストについて学習する。報告者のグループを決めて学習を進めていくが、各自が自ら読んで学習しなければ、この演習の目的は達成されない。 2 必要な場合はコンピューター実習を継続する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>サムエルソン (著) 『経済学 (第13版上)』 (岩波書店、1992年)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊代田光彦著『マクロ経済学』 (法律文化社、2003年4月予定)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	03	通 期	4 単位	望 月 和 彦
<p>テーマ：村上さんに学ぶ経済学 〔演習概要・学習目標〕 村上龍は不思議な作家だ。芥川賞を受賞したからには純文学からやってきた人のはずなのに、経済問題についてやたら詳しく、やたら関心を持っている。彼の経済問題に対する勘のよさは作家ならではのものだ。さらに作家なので書いていることが分かりやすい。そこで一年生の経済学入門として村上さんの本を取りあげることにする。この本は、日本昔話を現代風にリメイクしたもので、内容はメッチャ簡単である。今まで本をほとんど読んだことがなくても読める。しかし村上さんがこれで何をいいたかったのかを読みとるのはそれほど簡単ではない。彼が昔話に仮託したメッセージは何なのか？もうこれはミステリー小説である。この謎解きに挑戦してほしい。</p> <p>同時に、社会問題全般について関心を持ってもらうために、新聞記事を要約して発表してもらうとともに、ディベート（討論）も行う。</p> <p>ゼミは、教師が学生に講義をする場ではない。逆に学生が教師に色々なことを教えてくれる「オイシイ」時間なのだ（つまり授業料を取っている方が利益を得ている——おっと！これは秘密だった）。諸君がどんな情報を提供してくれるか楽しみに待っている。</p>	<p>〔演習計画〕 この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。</p> <p>◆テキストの輪読 テキスト： 村上龍 『おじいさんは山へ金儲けに』 NHK出版 テキストの内容を要約して発表する。</p> <p>◆新聞を読む これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。</p> <p>◆ディベート（討論） これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。</p> <p>年に数回、他のゼミとの対抗ディベートも行う。 できごととはどのようなものであるかについては、以下のホームページを見ること。 http://www.cg-s.bias.ne.jp/mochan/index.htm</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席、発表、課題提出によって評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 文藝春秋編『日本の論点』シリーズ 文藝春秋社 鷲田小彌太『哲学がわかる事典』 日本実業出版社 鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社 よみうりテレビ編『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社 猪瀬直樹『日本国の研究』 文藝春秋社 浅羽通明『大学で何を学ぶか』 幻冬舎</p>			
<p>〔教科書〕 村上龍 『おじいさんは山へ金儲けに』 NHK出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	04	通 期	4 単位	木 村 二 郎
<p>〔演習概要・学習目標〕 この演習 I では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえる現実の具体的な諸問題の輪郭を学習する。交替にレジメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート（討論）を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。</p> <p>一年間を通じて、大学で経済学を学ぶ上で不可欠な能力（読み・書き・話す）を身につけ、日本経済の大枠を理解することにより、有意義な大学生活の出発点にしてもらいたい。</p>	<p>〔演習計画〕 テキスト各章（景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など）の輪読と班対抗ディベートを前後期を通じて行う。随時、小レポート作成を通じて、書く能力の養成に努める。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕 三橋他編『ゼミナール日本経済入門』（2003年版）日本経済新聞社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ（経済学の基礎知識）	05	通 期	4単位	熊谷 次郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>毎年、1年生の演習用にやさしくて、ためになる教科書を使って、その内容の要約や疑問点・問題点を口頭でもって報告（報告用にA4サイズ1枚のレジュメ作成も含めて）してもらい、その報告にもとづく討論を行って、内容の理解をはかることを行っている。この点は本年度も変わらないが、教科書は思い切って大学生にはやさしすぎるものを選んだ。経済に関するニュースや会話などによく出てくるキーワードを中心に取り上げ、そのキーワードの理解をもとに経済の仕組みや動きの基本をしっかりと理解することを演習の目標とした。教科書は、分かりやすくするために、話を単純化しすぎてもあるので、その点の注意も含めて読んでいきたい。「経済学は経済学者にだまされないために学ぶのだ」と言った有名な経済学者もいたことだし。こう言った本人の経済学も、したがって信用してはならない？。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>毎回報告者と司会者を決めて、その報告をもとに活発な議論をするようにしてほしい。たぶん20～25名の演習だろうから、緊張せずに、自由に発言し、出席した以上は何かを学び、何かをしゃべるようにしてほしい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習での報告、発言、レポート、出席などで総合的に評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>山下景秋『日本経済のことがおもしろいほどわかる本』中経出版、2002年。1400円。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅰ	06	通 期	4単位	佐賀 朝
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。</p> <p>まず①論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること、次に、②特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに③そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で④他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。</p> <p>書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大事な作業である。</p> <p>1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>（前期）ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、担当を決めてその要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材に全員で討論を行う。場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。</p> <p>以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。</p> <p>（後期）基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。</p> <p>*なお、取り上げるテーマとしては、戦争と平和、環境問題、教育問題、福祉問題から、地域社会や都市の問題、大学改革の問題などなど、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、報告、討論、レポートなどを総合的に評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の中で随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めず、随時、プリントなどを配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	07	通 期	4 単位	滝 田 和 夫
<p>[演習概要・学習目標] 現代の経済学は、A. スミス、J. M. ケインズ、K. マルクスなどの経済学の巨匠たちが作り上げた経済理論を基礎に組み立てられている。例えば、本学経済学部必修科目である経済原論はIA-1（ミクロ経済学）、IA-2（マクロ経済学）、IBと三つに分かれているが、あえて単純化すれば、これら三つの経済原論はそれぞれ上の三人の経済学が発展したものと見える。この演習では、経済学への入門として、彼ら三人を含む何人かの経済学の巨匠達が、どのような人生をおくり、また自分たちが生きた時代の問題をどのように考え、解決しようとしたのかを学んでいきたい。その際、難解な経済理論そのものよりも、むしろその人物の人生と社会の見方・理想・ヴィジョンなどに焦点を合わせてみたい。</p> <p>演習では、経済思想のやさしい入門書としてアメリカで長く定評のある下記のテキストを輪読していく。つまり、テキストの分担を決めて、担当者には内容を要約・報告してもらい、それに基づいて討論を行う。このようにして経済学の巨匠たちに慣れ親しむことがこの演習の基本目標であるが、それと同時に、現実の経済に関する感覚を磨くことも大切なので、毎回のゼミの最初20分程度は新聞の興味ある経済記事について、やはり報告者を決めて報告・討論を行いたい。</p>	<p>[演習計画] 毎回、最初の20分間は、経済記事の報告・討論 後の70分間は、テキストの報告・討論</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席と報告・討論の状況による。</p>	<p>[参考文献] 必要に応じて随時指示する。</p>			
<p>[教科書] ロバート・L・ハイルブローナー著、八木甫他訳 『入門経済思想史、世俗の思想家たち』筑摩学芸文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	08	通 期	4 単位	矢 根 真 二
<p>[演習概要・学習目標] テーマは「コミュニケーションから始める経済のABC」です。人生を愉快地過ごすには上手なコミュニケーション力が必要です。自分の思いをうまく相手に伝え、他人の考えを正確に理解できれば、家庭でも学校でも、遊びでも仕事でも、もっと快適な生活をエンジョイできるからです。</p> <p>ところが話す練習なんてしたことのない人が大半ですから、いざ人前で話すことになるのが苦になるのも当然です。でもこのままでは、今後の人生を左右する重要な面接・交渉・会議などを乗り切るのには難しいでしょう。もともと対話は相互の理解と知識を高める効率的な学習法でもありますから、これから経済を学ぶ初心者同士、友人との日頃の会話のようにコミュニケーションの練習を兼ねつつ、ついでに現実経済の様子も相互に学び合おうというわけです。</p> <p>ですから演習では、聞いているだけの講義とは違って、メンバーの個性と積極性がポイントになります。失敗を恐れて無難に話すのではなく、他人とは違う自分なりの考え方を相互に交換するからこそ、楽しく有益な時間になるからです。各種プログラムの運用を含めて、何事にも創意工夫でトライする企業家精神を発揮しましょう。</p> <p>その結果として、自分なりの考えを他人にうまく伝えることに少しでも自信を持てるようになることが演習の目標です。</p>	<p>[演習計画]（以下のようなプログラムから取捨選択して実施します） ①入門情報リテラシー：「読み・書き・IT」は効率的なコミュニケーションの基本です。演習でも報告内容を各自のHP（ホームページ）にアップしてもらうので、最初に基本的な操作をインスタントに復習します。技術に強いのは若者の特権ですから、自分のHPなど作ったことがない人は経済情報処理演習、作文は苦手だという人は論述作文などを履修しておくべきでしょう。 ②ディベートゲーム：日頃よく耳にする話題から関心のあるトピックを選び、賛成派・反対派に分かれて討論するゲームです。いろいろな論理・価値観・考え方を学ぶと共に、相手をうまく説得する技術を高めることが目的です。 ③テキストの輪読：同じ本を読んでも人によって解釈や疑問は異なります。そこで同じ本を読んで疑問点を出し合って話し合うことで、互いに読解力・理解力を高めるのが目的です。演習 I では、そもそも自分なりに考えること・書くこと・話すことといった基本的なスキルに関する読みやすい本から選びます。 ④仮想株式ゲーム：ネット上で仮想的な株式売買を行い、資産運用とその戦略の練り方を学習します。多くの企業の存在や業績について情報収集し、意思決定と論理的な説明力の重要性を体感することが目的です。 ⑤その他：新しい商品や新聞記事を要約・解説するニュースレポート、新商品やサービスを発案・企画する新商品企画、基礎的な作文の練習をする800字程度の自己主張などを用意していますが、詳細は教員HPを参照して下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法] 各種プログラムに関する自己評価シートをベースに評価します。</p>	<p>[参考文献] ●経済情報処理演習などを履修できない人は、情報センターのガイドブックを自習しましょう。 ●詳細な情報・質問には、教員HP (http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/) を利用して下さい。</p>			
<p>[教科書] 野口悠紀雄(2002)『「超」文章法』中公新書 780円 照家華子・岡田恵子(2001)『ロジカル・シンキング』東洋経済 2200円</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I セクター別に見た経済機能の役割変化を検証する	09	通 期	4 単位	中 野 瑞 彦
【演習概要・学習目標】 【演習概要】 日本経済の変遷について、家計、企業、政府（地方自治体も含む）、海外の各経済セクターの変化から分析する。更に、各経済セクターにとって何が意思決定要因となっているのか、その決定要因がどのように変化しているのかについて理解した上で、各経済セクターを巡る今日の問題点について検証する。 【学習目標】 日本経済についての基本的な知識を習得し、正しい問題意識を持つようになることを目標とする。	【演習計画】 下記項目について、各2～3回の講義・討議を中心に進める。討議にあたっては参加者自身が各自の問題意識を持ち、その問題点について整理しておくこと画望ましい。 1. 日本経済の変遷概論 2. 家計動向の変遷と経済的役割の変化 3. 企業行動の変遷と経済的役割の変化 4. 政府部門の変遷と経済的役割の変化 5. 海外部門の変遷と経済的役割の変化 6. マネーフロー面での各経済セクターの役割変化 7. 経済セクターの意思決定要因とその変化 8. 各経済セクターが抱える今日の問題点			
【成績評価の方法】 演習への参加積極度、各自課題レポート提出による	【参考文献】 1. 小峰隆夫（著）「最新 日本経済入門」（日本評論社） 2. 岡崎哲二（著）「現代日本経済システムの源流」日本経済新聞社			
【教科書】 別途指示します				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I 経済データから経済現象の実態を探る	10	通 期	4 単位	中 野 瑞 彦
【演習概要・学習目標】 【演習概要】 今日の経済実態を把握する上で、経済データを読みこなすことは経済学を学ぶ基本であるとともに、経済事象を理解するための重要な作業である。本演習は経済学を学ぶ第一歩として、金融経済に関する各種経済データに親しみ、そこから経済事象の実態像を捉えることを目標とすると共に、理論的意味付けを考察する。 【学習目標】 経済分析の導入として、第一に、自分で各種経済データを目的に沿って収集し、分析できる力を身につけることを目標とする。第二に、各種経済データを経済理論的に解釈する力を養うことを目標とする。	【演習計画】 以下の各項目について、関連経済データの収集・分析を通じて基本的な流れを把握しながら、着眼点や問題点を深めてゆく。 1. 経済データの見方と考え方 2. 生産関連データの把握と理解 3. 人口・労働力データの把握と理解 4. 消費動向、物価関連データの把握と理解 5. 企業関連データの把握と理解（含むマイクロ経済） 6. 貿易関連データの把握と理解 7. 金融関連データの把握と理解 8. その他			
【成績評価の方法】 演習への参加積極度、各自課題レポート提出による	【参考文献】 「雇用と失業の経済学」樋口美雄 日本経済新聞社 「経済成長の決定要因」R.J.バロー 九州大学出版会			
【教科書】 別途指示します				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習 I	1 1	通 期	4 単位	中 村 勝 之
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、みんなが卒業後に直面する就職・職業について考えていきたい。</p> <p>入学して間もない学生に、卒業後の話をするのはいささか早いようにも思える。苦渋の(?)高校時代が終わり、楽園の(?)大学生活を謳歌しようとしている矢先に、現実の話を突きつけられたくない気持ちはわかる。しかし就職は待ってくれない。しかし待ってくれるものと考えがちである。だから大学の「在学中にやりたいことを見つける」と余裕を見せておきながら、いざというときに慌てる結果になるのである。こうした意識を自分の力によって変革してもらいたい、そういう意味を込めて、あえて1回生のこの時期に就職のことを考えるわけである。</p> <p>この演習の最終的な目標は、自分が興味を持った企業に関する「企業研究」をしてもらうことである。その研究を通じて、企業の実態をつかみつつ、どこの企業が元気がいいのか、その判断を行える方法について演習では学習していきたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>I.準備作業</p> <p>1.進路希望調査</p> <p>2.調査の方法 ~図書館ガイダンス~</p> <p>3.「発表」「討論」の方法</p> <p>II.就職のための企業研究アプローチ</p> <p>1.簿記および会計学</p> <p>2.企業データ</p> <p>3.新聞記事</p> <p>III.演習成果の蓄積 ~レポート作成~</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①基本的に出席はとらない方針だが、毎時間出席していることが前提となる。</p> <p>②演習中における発言、およびその積極性を重視する。</p> <p>③課題レポートなどの独創性を重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示していく。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習 I (経済学って何)	1 2	通期	4 単位	西川 憲二
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学部に入學してどんなことを学ぶのか、経済学って何なのか。どんな役に立つのか。このようなことを考えるために、いろいろなテーマについて説明しながら議論していきたい。そのような中で、話す練習とレポートを書く練習をする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>大学キャンパス生活</p> <p>新聞記事の読み方</p> <p>ビデオを見てレポートを書いてみよう</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 3	通 期	4 単位	坂 昌 樹
[演習概要・学習目標] テーマ：社会のなかで生きるって、どんなこと？ ぼくは自分が経済学部出身であるにもかかわらず、いわゆる経済学がつまらなくて、歴史や思想を勉強しています。なにがつまらないかといえば、経済学は日本経済とか国際経済をうんぬんしても、結局、ぼくのことについてはなにも教えてくれないからです。つまり知識と生活のリアリティの間に、断絶を感じるんです。自分の将来に役立つ個別のアドバイスは、経済学の中に一切見つかりません（頭のいい人には見つかるかもしれないけど、ぼくには見つからなかった）。そんなぼくのゼミに来て、個別のアドバイスは、具体的にはきくと与えられません。しかし、個々人の問題が社会全体の問題より軽んじられてはいけない、という気持ちはあります。これがこのゼミ共通の了解事項です。これを前提にして、それでも自分好みの知的好奇心を死滅させないで、自分にふさわしい大学生活を設計するにはどうしたらよいか、うまくいくかどうかはわかりませんが、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。	[演習計画] ・導入：大学生の生活、大学でしなければならないこと、大学でできること（これが大事） ・勉強の方法：日常の情報収集（新聞、テレビ、図書館など）、コンピューターの利用、本の読み方（ここで1冊本を一緒に読みます） ・自己表現の方法：ゼミ報告の仕方、レポートの作り方、自己主張 ・まとめ：将来について夢を持ち、それを語ろう！			
[成績評価の方法] 演習への出席は最低条件です。積極的に参加し、自分のことばで自分の意見や気持ちを表現することが評価されます。この表現に説得力があり、他者の同意がえられれば、さらに評価されます。	[参考文献] 必要があれば、そのときに配布します。 連絡先：(研究室) アンデレ館 7 階 725 室 (tel) 0725-54-3131 (内線) 3725 (Email) ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。			
[教科書] おって指示します（読みやすい新書を予定しています）。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 4 1 5	通 期 通 期	4 単位 4 単位	藤 田 香
[演習概要・学習目標] この演習 I では、経済学の基本的な骨組みについて学習します。新聞は連日、「構造改革と景気」、「不良債権問題」などの問題を報じ、経済危機への処方箋を提示しています。しかし、経済に関する言葉の意味や仕組みを理解するのは、かなりしんどいです。 この演習 I の目標は、経済の複雑な問題について、その本質を自分の力で考える力を身につけることです。経済学は一つの体系をなしている学問であり、基本的な骨組みは以外にシンプルです。経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がくっきりと見えてきます。理解できれば、興味も湧き、問題の本質を自分の力で考えることもできるでしょう。	[演習計画] この演習 I では、講義形式をとらず、受講生の発表を中心にいきます。具体的には、テキストを輪読し、①個人報告、②共同報告に基づいた討論により、読み、話す能力を身につけ、③レポート作成を通じて書く能力の養成に努めます。また、定期的に、テストも実施します。同時に、レジュメ、レポートの作成方法やプレゼンテーション・テクニックについても、学習します。			
[成績評価の方法] 出席することは前提です。社会常識やマナーを守って行動しない場合（私語、睡眠、携帯（メール）、飲食、遅刻、途中退室、内職、無断欠席等）は、除籍します。その上で、演習に対する取り組みの積極性（ただじっと座っているだけでは、評価しません）、報告、討論、レポート、テストについて総合的に評価します。	[参考文献] 講義中、適宜紹介する。			
[教科書] 日本経済新聞社（編）『やさしい経済学』 （日経ビジネス人文庫667、2001年、日本経済新聞社、700円） →最初の授業で、報告の順番を割り当てますので、受講生は必ず持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演 習 I (経済学部に入学金たけれど…)	16 17	通 期 通 期	4 単位 4 単位	松尾 純
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>いま、皆さんは、大学の経済学部に入学金たけれど、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉強していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして 4年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。</p> <p>この演習 I は、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。</p> <p>この演習 I が、学生生活一般・勉強・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと考えています。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>1, 大学生生活に馴染もう。(5回程度) キャンパス見学。カリキュラム・ガイダンス。 情報センターに行ってE-Mail・インターネット等を使えるようになる。図書館に行って図書館を上手に利用し、情報を効率的に取得することが出来るようになる。</p> <p>2, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう——I。(6回程度) 教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。話し合ったことの要約(=レジュメ)を作成してみよう。</p> <p>3, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう——II。(6回程度) 学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。話し合ったことの要約(=レジュメ)を作成してみよう。</p> <p>4, 学生各人(またはグループ)がテーマを設定して、その研究結果を報告し、討論をしてみよう。(6回程度)</p> <p>5, 研究テーマについてレポートを作成をしよう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席などの平常評価 と 学期末に提出してもらったレポートとを総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	阿部 秀二郎	経済学における自由思想史	117
02	〃	経済学と人間観の歴史	117
03	浦出 俊和	環境問題と経済学	118
04	大澤 健	市場経済の基本的な運動法則を理解する	118
05	吟谷 泰裕	近代経済学の基礎概念を学ぶ	119
06	〃	人生の諸現象を経済学的視点から考える	119
07	佐々木 和子	「生活」から社会を考える	120
08	〃	公害史を考える	120
09	前田 治郎	社会科学の方法	121

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演 習 II (経済学における自由思想史)	01	通 期	4単位	阿部 秀二郎
<p>[演習概要・学習目標] 経済学をはじめとする社会科学を志す我々にとって大切なことは、科学の対象を柔軟に観察・研究できることであり、それを可能にする積極的な問題関心をもち、多様な眼鏡を構築し、さらに経験を積むことであると思います。それを行う際の基礎として歴史的研究方法は柔軟性・多様性・問題関心の涵養を可能にします。 本演習では経済学と自由との関係についての歴史的考察を詳細に分析・深く検討することで、表面的な偏った視点に囚われず現代社会を分析するためのトレーニングを積みたいと思います。 演習ですから、輪読→議論→作文→確認(更なる議論)というプロセスをたどりたいと思います。そして演習ですから議題が方々へ飛散する可能性もありますが、その方向も楽しんで自分のものとして吸収できるようにしたいと思っています。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学の誕生 ・社会主義思想 ・市場と国家 ・政治経済学から純粋経済学へ ・功利主義の思想 ・一般均衡の思想 ・市場社会の変貌 ・大転換 ・法人企業の変容 ・ケインズ革命 ・不確実性と「期待」 ・貨幣について ・市場と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・マネタリズムとケインズ主義 ・経済学における自由思想 			
<p>[成績評価の方法] 作文の出来(毎回10点満点で点数を付けます)が7割と発言機会・内容が3割です。これを総合して評価します。</p>	<p>[参考文献] 教科書の末尾にあります文献と、演習時に随時指摘します。</p>			
<p>[教科書] 問宮 陽介著『市場社会の思想史—自由をどう解釈するか—』,中公新書,1999</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演 習 II (経済学と人間観の歴史)	02	通 期	4単位	阿部 秀二郎
<p>[演習概要・学習目標] 本演習では、問題意識を持ってもらうとともに何らかの形で解答を導くためのトレーニングを行いたいと思います。経済学が人間をどのように扱ってきたのかその教訓はどのようなものかについての考え方を認識、分析します。最終的には、経済学とは何かという経済学の概念を各人に確立してもらいたいと思っています。やがて専門的な知識を吸収することになる前に、ある経済学者によって指摘された「経済学を学ぶのは経済学者の見解にだまされないため」にも個人が自律的に思考できる能力をみにつけることを目標にします。 形式は、輪読→議論→作文→確認(更なる議論)になると思います。知識の吸収を目的とするものではありませんので、議論の進行に応じてテーマが複数回重複する可能性もありますし、多発的になる可能性もあります。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の規律 ・「豊かさ」から「飽食」へ ・日本経済の「強さ」 ・「産業化」 ・産業文明の「無理」 ・「豊かさ」の果て ・自由放任の肯定 ・資本主義の「青春時代」 ・拜金主義 ・マルクスの直感 ・スミスの誤算 ・共産主義・計画経済 ・「失業」からの開放 <ul style="list-style-type: none"> ・政府の大きさ ・模索する経済学 ・人間とは何か 			
<p>[成績評価の方法] 作文の出来(毎回10点満点で点数を付けます)が7割と発言機会・内容が3割です。これを総合して評価します。</p>	<p>[参考文献] ・スミス『国富論』 ・マルクス『資本論』 ・ケインズ『自由放任の終焉』 上記書は教科書の内容の認識・考察を目的とするものです。その他はその都度指摘してゆきます。</p>			
<p>[教科書] 飯田経夫著『経済学の終わり—「豊かさ」のあとに来るもの—』,PHP新書,2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ	03	通 期	4単位	浦 出 俊 和
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>環境問題とは何か?この問いに答えるためには、自然科学的な基礎知識は言うまでもなく、社会科学的な視点も必要不可欠である。本演習では、環境論についての入門書の輪読を通じて、これらの知識を身につけることを目標の1つとする。また、環境問題を経済学的に分析するための基礎的な知識・理論を身につけることももう1つの目標である。</p> <p>本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成力の向上を図ることを課題としており、参加者の自主性や積極性を重視する。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>テキストの分担報告と討論を順番に行ってもらい、適宜、課題・レポートを課す予定である。詳細については、初回に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、課題・レポートの提出によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて演習の中で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1. 瀬戸昌之・森川靖・小沢徳太郎(著)『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ、1998年 2. 植田和弘(著)『環境経済学への招待』丸善ライブラリー、1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ	04	通 期	4単位	大澤健
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この講義は基本的な文献を読むことで、経済学の基礎知識を習得するとともに、専門的な文献を読む力を付けていくことを目指しています。</p> <p>「平成不況の政治経済学」という本をまず読んで、「市場経済」の特徴とそれにはなぜ「不況」という問題が生まれるのかについて考えてみましょう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>平成不況の政治経済学」は前期で読み切る予定なので、後期は別のテキストを用意します。受講者の希望も考慮します。</p> <p>また、授業の進行の仕方は基本的にゼミの形式に従い、レポーターの報告をもとに討論を行ってもらいます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の授業態度によって評価する。必要に応じて私権を行うことを検討するが、基本的には行わない予定。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>佐和隆光「平成不況の政治経済学—成熟社会の条件」中公新書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ (近代経済学の基礎概念を学ぶ)	05	通 期	4 単位	吟 谷 泰 裕
<p>[演習概要・学習目標] 現実の経済を読み解くための「コツ」、それはどんな経済現象の背後にも、論理的な共通のメカニズムが存在することを学ぶことです。そしてこのメカニズムを理解するためには「経済を見る目」を養っておく必要があります。それを養わずに、様々な経済現象をよりよく理解し、将来の見通しを立てることは出来ません。「急がば回れ」であり、基礎から始めて、その基礎を自由自在に活用できるまで復習することを嫌がっている、いつまで経っても応用はききません。 上述の考えに基づいて本演習では、経済学に初めて接する方々が、経済学の基本的な問題を理解できるように「経済を見る目」を養うことを目標とします。</p>	<p>[演習計画] 本演習では、左記の目標を達成するために以下の訓練を行います。 1. テキストを「消化不良を起こすことなく」じっくりと読み進める。 2. その内容を要約し、それを素直な日本語で正確に表現する。 そして基本的な演習形式は以下の通りです。 1. 各回の演習毎にその回の担当報告者が、自分の担当した範囲の内容を記入した報告用紙(レジュメ)を出席者全員に配布し、それに基づいて報告を行う。 2. それを聞いた各出席者がそれぞれの疑問点やコメントを表明し、それらに対して報告者が返答をする、という形態で議論を行う。 3. 教員が(報告者を含む)各出席者の質問に答えるという形態で内容を解説し、要約する。 4. 担当報告者は、教員が行った内容解説およびその要約を参考にして報告内容を文章にまとめ、次回の演習の開始直後に出席者全員に報告する。 5. 教員がその文章を添削するという形態で前回の内容の復習を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 右上の[講義計画]に記載した、(担当報告者の)一連の作業を行うことが単位取得の必要条件となります。そして全回出席が単位取得の基本条件です。こうした基本的条件を満たしていることを前提に、報告内容、および各回における発言回数等を考慮することによって成績評価を行います。</p>	<p>[参考文献] 各演習中に追って指示します。</p>			
<p>[教科書] 『経済学を学ぶ』岩田規久男 著 ちくま新書 no. 002</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ (人生の諸現象を経済学的視点から考える)	06	通 期	4 単位	吟 谷 泰 裕
<p>[演習概要・学習目標] 人のライフサイクルに関する生誕、教育、結婚、労働、貯蓄、死亡といったような言葉は、経済の用語として意識されないで使われているともいえます。あるいは経済学になじまない、と理解されているかもしれません。本演習ではそのような理解を打破するため、人の日常生活(すなわちライフサイクル)上に発生する諸現象に注目し、経済学の考え方を応用することを目的としています。ここで経済学の考え方というのは、人の経済行動は合理的な選択によって説明される、という考え方です。つまり効用(満足ないし便益)が非効用(苦痛ないし費用)を上回ることを選択の基準とするのが、経済学の基本原則です。 もっとも人生上の諸活動の選択を、経済学のみによって解釈することに心理的抵抗があるかもしれません。だが本演習で提示される経済学的解釈は、あくまで一つの考え方であって、それが唯一のものであることは決してありません。受け入れるか受け入れないかも各出席者の選択の自由です。それが経済学という選択でもあります。</p>	<p>[演習計画] 本演習では、左記の目標を達成するために以下の訓練を行います。 1. テキストを「消化不良を起こすことなく」じっくりと読み進める。 2. その内容を要約し、それを素直な日本語で正確に表現する。 そして基本的な演習形式は以下の通りです。 1. 各回の演習毎にその回の担当報告者が、自分の担当した範囲の内容を記入した報告用紙(レジュメ)を出席者全員に配布し、それに基づいて報告を行う。 2. それを聞いた各出席者がそれぞれの疑問点やコメントを表明し、それらに対して報告者が返答をする、という形態で議論を行う。 3. 教員が(報告者を含む)各出席者の質問に答えるという形態で内容を解説し、要約する。 4. 担当報告者は、教員が行った内容解説およびその要約を参考にして報告内容を文章にまとめ、次回の演習の開始直後に出席者全員に報告する。 5. 教員がその文章を添削するという形態で前回の内容の復習を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 右上の[講義計画]に記載した、(担当報告者の)一連の作業を行うことが単位取得の必要条件となります。そして全回出席が単位取得の基本条件です。こうした基本的条件を満たしていることを前提に、報告内容、および各回における発言回数等を考慮することによって成績評価を行います。</p>	<p>[参考文献] 各演習中に追って指示します。</p>			
<p>[教科書] 『ライフサイクルの経済学』橋本俊詔 著 ちくま新書 no. 135</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ 「生活」から社会を考える。	07	通 期	4 単位	佐々木 和 子
[演習概要・学習目標] 何げなく過ぎていく日常生活のなかには、立ち止まって考えなければならない問題がたくさんある。毎日暮らしている生活を見つめなおし、そこから現代社会がかかえている問題についての基礎的な理解を深める。「住むこと」、「食べること」など、身近なところから問題を探し出す力を養うことも目標としている。 ちよつとむずかしい本も、読み方を少しマスターすれば、興味深く読み進められるはず。この演習では、テキストを輪読しながら、内容を的確に把握し、さらにそれを要約する力の育成を目指している。	[演習計画] 春学期： 共通する文献を読み、内容把握の基礎を学ぶ。輪読形式でおこない、各自要約・コメントを作成する。 秋学期： 自分たちの生活の中から、問題を見つけ出し、各自テーマにそった文献を読み進める。			
[成績評価の方法] 成績は、出席状況、報告内容、レポートによって総合的に評価する。	[参考文献] 授業中に適宜指示する。			
[教科書] 最初の授業で、受講者の「生活」についての問題意識を討論し、共通に関心のあるテーマについての文献を設定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習Ⅱ 公害史を考える	08	通 期	4 単位	佐々木 和 子
[演習概要・学習目標] 四日市公害訴訟判決から30年を経た。この間、企業の排煙による工場公害から、自動車の排ガスによる道路公害へと姿を変えながら、いまなお大気は汚染され続けている。 1992年リオデジャネイロで、2002年にはヨハネスブルグで地球環境サミットが開かれ、世界的規模で環境問題への関心が高まってきている。一方、日本国内でおこっていた公害問題への関心は、そう高くない。 この演習では、日本の公害問題の歴史に視点をおき、日本近代中での公害問題について考察する。 同時に、テキストを輪読しながら、内容を的確に把握し、さらにそれを要約する力の育成を目指す。	[演習計画] 春学期： 共通する文献を読み、内容把握の基礎を学ぶ。輪読形式でおこない、各自要約・コメントを作成する。 秋学期： 各自の関心あるテーマにそって、文献を読み進める。			
[成績評価の方法] 成績は、出席状況、報告内容、レポートによって総合的に評価する。	[参考文献] 授業中に適宜指示する。			
[教科書] 田尻宗昭『四日市・死の海と闘う』岩波新書				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
演習Ⅱ	09	通期	4単位	前田治郎
<p>〔演習概要・学習目標〕 試験のためだけにあわてて勉強すると、どうも歩留まりが悪く身に付かない、そんな経験はないでしょうか？ この演習は、参加者全員で同じテキストを精読し、討論するという形式で進めていきます。同じ素材を読んでも、人によって受け止め方や捉え方は当然異なってきますし、他の人の発想から得るものも多いはず。じっくり読みとり、よく考え、異なる意見に耳を傾けながら、様々な事態に応用可能なねばり強い思考を身につけることが、到達目標です。</p> <p>1年間を通してのテーマは、「社会科学の方法」です。経済学はもちろん社会科学の一分野です。自然科学と異なり社会科学が幾分うさんくさく思えるのは、分析対象が、分析主体である人間自身の創作物である社会であり、しかも人間は歴史的に絶えざる変化を遂げているからです。したがって、自然科学におけるような、人間から独立した客観性などあり得ないと思えるからです。とはいえ、私たちはこの社会の中を生きていく以外にないのですから、あきらめずに、世の中を少しでもよりよく把握できる方法を一緒に考えてみましょう。</p>	<p>〔演習計画〕 日常的に繰り返す作業としては、以下のものがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの指定部分を精読する。 2. 当該箇所テーマ、論点、感想・批判などの覚え書きを、参加者各人が実際に記入して整理する（所定用紙を配布）。 3. 区切りのよいところで、短いレポートを作成する。 <p>春学期には、「教科書」で指定した2冊を読みます。 秋学期のテキストは、参加者と相談して決定します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席を中心とした平常評価。この場合の出席は、「演習計画」にある日常作業をこなしていることが前提です。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕 内田義彦著『社会認識の歩み』岩波新書 大塚久雄著『社会科学における人間』岩波新書</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学基礎理論 A	01	春学期集中	4単位	荒木英一
<p>〔講義概要・学習目標〕 マクロ経済学を中心に、経済学の専門用語と基本的な考え方を概説していく。新聞や雑誌の経済記事あるいは経済財政白書などの内容を理解するための基礎学力の習得を目指す。受講生諸君には、経済の動きを論理的に考察することの大切さを理解していただければと思っている。</p> <p>なお、講義中にある程度の数学（といっても高校数学ⅠA程度）を使用する。算数がどうしても苦痛という受講生のために、数式なしでも理解できるように授業内容を工夫するが、経済学部生諸君の場合には、できれば、「経済学のための数学入門」を同時履修されることをすすめたい。</p>	<p>〔講義計画〕 日本の経済力と景気の現状 有効需要原理とは 日本のおカネ、不良債権 財政・金融政策の効果 オープン・エコノミー 失業とデフレーション あなたはフィッシャー派それともシュンペータ派？</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業中の小テストと学期末試験による</p>	<p>〔参考文献〕 適宜に指定する</p>			
<p>〔教科書〕 使用しない。プリントを配布する。2002年度講義資料は http://rio.andrew.ac.jp/araki/kiso-A02.html を参照のこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	02	春学期集中	4単位	矢根 真二
<p>【講義概要・学習目標】 経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うのも経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回る人だけが購入すると考えるのです。すると、バイトに精を出すのもデートに出かけるのも、いずれもウーロン茶の問題と同じように考えることができます。</p> <p>このように簡単なモデル（模型となる見方）によって、本当は複雑で多様な現実をできるだけ簡単に理解しようというのが経済学の特徴です。ナマケ者にはピッタリですが、実はこれこそ科学に共通する基本的な方法なのです。</p> <p>ですから「科学としての経済学」の基礎を学習する基礎理論Aの目標は、現代の複雑で多様な経済現象を簡単に捉えられる基本モデルを修得することです。基本モデルは万国共通ですから、テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも、株式先物やデリバティブといった経済関連の話はもとより、ドラッグ密売・売春から環境汚染・少子化問題に至るような話に関わるエコノミストの常識を理解できるようになります。モデル思考は非常に便利で経済的なのです！</p> <p>ただ、科学としてのモデル思考に慣れるには、たんに丸暗記するだけではダメで、現実を抽象化して論理的に考える習慣が必要です。実際、基本モデルの多くは簡単なグラフや中学程度の数式で表現されますから、未だに文系に数学は不要と考えているようでは時代に遅れてしまいます。企画や経理はもとより人事や営業でも、プロになるにはシミュレーションや数学に強くなる必要があるからです。もっとも忘れてしまったものは仕方ありませんから、講義では中学程度の知識も必要に応じて解説しますから、意欲さえあればOKでしょう。</p>	<p>【講義計画】 テーマ： モデルで学ぶ入門経済学 大きな書店に行けば分かるように、科学としての現代経済学はミクロ経済学（経済原論IA-1）とマクロ経済学（経済原論IA-2）に分かれ、公務員やEREなどの各種試験の主要科目にもなっています。そこで基礎理論Aでは、両者の基礎となる現代経済学の（テキストの10大原理に相当する）常識を学習します。</p> <p>現代経済学は、大雑把にその基本的な考え方と構成を要約すると、 ①複雑で多様な経済現象を理解するのに簡単なモデルを作って考える ②「企業⇒産業⇒日本⇒世界」といった多様な問題を理解するのにも、各段階で作ったモデルを組み合わせた複合モデルを使って考える</p> <p>このように、様々なモデルをブロックのように積み重ねて作られています。そこで基礎理論Aでは、基本的なブロックとして今後何度も多用される個人と社会の見方、つまり主体と市場の基本モデル、もっと簡単に言い直すと、 ①あなたや私、つまり消費者や生産者といったすべての個人の行動の見方 ②こうした個人の行動を総計したらどうなるかという市場の見方</p> <p>の解説に重点を置きます。まさに世の中を捉える基本的なメカネだからです。最も基本的な2つのモデル以外にも、今日では構造改革が叫ばれるなど政府の見方が重要でしょうし、悲惨な報復テロや毎日の広告戦争のような相手とのかけひきを伴うライバルの見方も大切でしょう。実際に経済学は、まるでファッションショーやモーターショーのように、新しい問題を理解するための新しいモデルやパーツを毎年のように開発・発表し続けています。</p> <p>時間をかけてモデル思考と基本モデルを重点的に解説する一方、時間の許す範囲で新しいファッションになりつつある基本モデルも解説する予定です。</p>			
<p>【成績評価の方法】 ●試験の総合計点が6割以上なら必ず合格とする予定。</p>	<p>【参考文献】 ●数学を苦手に行っている人は多いでしょうが、必ず経済学のための数学入門などを履修するか、ドウリング（『例題で学ぶ：入門・経済数学 上』シーエビー 第1・2章）などで関数やグラフの基礎を復習しておきましょう。 ●現代経済学の基本モデルは、現代の主要な経済・経営現象だけでなく、教育・社会・法律・政治問題を読み解く鍵としても使われています。講義内容と参考文献の詳細は教員HP（http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/）を参照して下さい。</p>			
<p>【教科書】 ●マンキュー(2000)『経済学 I ミクロ編』東洋経済新報社 ⇒世界中で使われ、講義で学習する主要概念もやさしく説明されている経済学の入門書で、その基礎の中でも基礎になるミクロの超初心者向け入門書ですから、必ず一度は目を通しましょう。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	03	秋学期集中	4単位	河合 勝彦
<p>【講義概要・学習目標】 本講義は、経済学を初めて学ぶ諸君を対象として、経済学の基礎的概念を説明することを主眼とする。ただし、その基礎的概念というものは、「経済・社会制度の実務知識」というよりも、むしろ「経済学的な思考法」が中心であるということに留意して欲しい。</p> <p>経済学的な思考法とは、人間および企業を、合理的な（目的にかなっている）行動をする主体として捉え、演繹的手法（一般的な原理から、特殊な事実を推理・説明すること）でもって、その行動予測をおこなうことである。そして、この行動予測の確からしさこそが、理論の有用性を証明するものと考えられる。</p> <p>なお、教員、学生がお互いに学び合う姿勢で講義に望みたい。よって、どんなに基礎的な質問でも躊躇しないで質問してほしい。積極的な受講態度を希望する。</p>	<p>【講義計画】 受講生諸君が、（中、上級）専門講義受講のために必要な知識を習得することを目標として、以下の題目から適宜選択する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、経済学の考え方 2、家計の消費行動と貯蓄 3、企業の生産行動 4、市場の失敗と政府の役割 5、金融の仕組み 6、国民経済計算の仕組み 7、政府の財政・金融政策 8、国際経済 			
<p>【成績評価の方法】 平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単な宿題および小論文を課す予定である。</p>	<p>【参考文献】 担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、参照を怠らないこと。</p>			
<p>【教科書】 資料を適宜配布する。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学基礎理論 A	04	秋学期集中	4単位	中村勝之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>大抵の学生に「経済学部に来た理由は?」と聞くと、①株で一儲けしたい、②就職に有利、と返事が返ってくる。②はともかくとして、①は経済学関連の講義を受講したら、すぐ役立てることができている節がある。しかし経済学自身は、そのような「生半可な」学問ではないことを主張するのが、この講義の目的である。</p> <p>経済学の基本とは、われわれが身近に体験している諸活動(生産、消費、貯蓄、勤労など)を通じて、国(世界、あるいは地域)全体としてどのように振舞うのかを探求する基礎を与えるものである。こうした議論自身は、経済学本来の「経済」活動に限定されず、周辺領域にまで拡張されてきている。そういう意味においては、「株で一儲け」という返事は、経済学のほんの一部に触れているに過ぎないのである。</p> <p>そこでこの講義は科目名が示す通り、「学問」としての経済学の基礎を解説していくことにする。ちなみにここでは、基礎部分のうち「近代経済学」に属する部分に絞って解説していくことにする。しかしながら近代経済学自身がきわめて広範囲にわたっているため、その詳細な論理構造は「経済原論 I A-1」や「経済原論 I A-2」に譲ることとして、内閣府が毎年出している『経済財政白書』をもとにして、アプローチしていきたい。</p> <p>ただし近代経済学の分析手法には、みんなの「超」苦手とする「数学」が多用されている。しかしここでは数式による説明は極力控え、図形やデータなどを多用した内容にしていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序論：経済システムの基本構造</p> <p>I. 『経済財政白書』から見える日本経済のすがた</p> <p>II. 『経済財政白書』が主張していることの裏をさぐる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席は基本的にとらない。</p> <p>②授業中に5～10回程度小テストを実施する。</p> <p>③中間試験、期末試験および小テストを総合して、評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『経済財政白書』(平成14年版)(ただし開講時点で15年版が出ていたら、そちらを使う)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学基礎理論 B	01	通期	4単位	大澤健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちが現在暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と言われています。そんな中で、私たちは「商品」、「貨幣」、「資本」という言葉を暮らしの中でよく耳にし、日常的な用語として使っています。</p> <p>しかし、その言葉の意味を改めて説明してみろと言われると結構難しいものです。まして、それらが相互にどのように関係しあい、どのように運動するのかがとなるとますます難しい問題になります。</p> <p>この講義では、このような基本的な経済学用語の意味を改めて考えながら、現在の経済社会の基本的なメカニズムと、特徴を明らかにしていきたいと考えています。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【春学期】 1・商品－市場の意味、市場経済の特徴 2・貨幣－市場をつなぐ媒介者 貨幣の機能、通貨システム</p> <p>【秋学期】 3・資本－資本とは何か 生産過程と資本主義 資本主義社会の諸特徴</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として試験の点数によるが、いくつかの加点要素(レポート等)を設ける。詳しい内容については、講義の初回に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>カール・マルクス著『資本論』(新日本出版社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴田信也編著『政治経済学の原理と展開』 創風社 2001</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B	02	春学期集中	4単位	松尾 純
<p>〔講義概要・学習目標〕 この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的な仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面も含めて総合的に分析しなければなりません。</p> <p>この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。</p> <p>なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論 I B」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス（1回）。 2. 経済学とは何か。経済学の目的。（1回）。 3. 経済の歴史の概観。（2回）。 原始共同体～奴隷制～封建制～資本主義～社会主義社会 4. 経済学の歴史の概観。（7回程度）。 1. 重商主義・重農主義 2. アダム・スミスの経済学。 3. D.リカードの経済学 4. J・S・ミルの経済学 5. 経済学の基礎理論。（10回程度）。 1. 限界革命と新古典派経済学 2. ケインズ経済学 3. マルクス経済学 1. 商品 2. 貨幣 3. 資本とは何か。 4. 剰余価値の生産。 5. 賃金。 6. 資本の蓄積。 7. 資本の流通過程。 8. 利潤・信用。 6. 現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。（2回）。 7. 講義の総括。（1回）。 			
<p>〔成績評価の方法〕 成績評価は学期末のテストによって行なう。 成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕 テキストは指定しません。受講者数が適度な限度内であれば、出来る限り、講義資料等を配布するようにします。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B	03	秋学期集中	4単位	上野 勝男
<p>〔講義概要・学習目標〕 日本経済が大きな不況にあえいでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれかえっているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる小さな木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしょう。しかし、学問には「サルでもわかる」とか、「玄関あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。もしそれがあるならば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦勞して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一步一步着実に登っていかねばなりません。ふもとからの着実なあゆみは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一歩のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくならないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。</p>	<p>〔講義計画〕 第1回の講義時間に目次とスケジュールを知らせます。 資料プリント配布し、それにそって授業を進めますのでご注意ください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 山登りは、少しづらくまた退屈かもしれないが、一歩ずつ登るというプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を大事にします（そのために小テストを随時実施します）。そして、もちろん定期試験もします。</p>	<p>〔参考文献〕 川上則道 著「『資本論』の教室－きっちりわかる経済学の基礎－」（新日本出版社）</p>			
<p>〔教科書〕 教科書は使用しませんが、参考文献（「『資本論』の教室」）が講義の一番重要な指針になります。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一 般 経 済 史		通 期	4 単 位	富 澤 修 身
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感ぜさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えると、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。</p> <p>講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I はじめに</p> <p>II 産業革命</p> <p>1 イギリス産業革命</p> <p>2 後発国・地域の工業化</p> <p>III 18世紀の経済史</p> <p>1 間屋制経営</p> <p>2 協業</p> <p>3 マニュファクチュア</p> <p>IV 19世紀の経済史</p> <p>1 機械制大工業</p> <p>2 鉄道経営</p> <p>V 20世紀の経済史</p> <p>1 大企業の登場</p> <p>2 1930年代ニューディール</p> <p>3 現代日本経済とリストラ</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>		
<p>[教科書]</p> <p>富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学のための数学入門		春学期 集中	4 単 位	藤 間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。しかし、小中高で学ぶ数学は数学という学問の一部です。そして、指導要領に縛られ受験の圧力にさらされているため決して健全な形でもわかりやすい形でもありません。</p> <p>逆に言うと、入試で必要となるテクニックなどを除外し広い視野で見ること、受験準備ではない問題演習を繰り返すことで今まで苦手にしてきた諸君にも数学に親しむことが提供できるはずです。この講義の目的はそのような、高いレベルから小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。</p> <p>自己充足的な講義を目指すので、小中高の数学の知識を予備知識として要求することはしません。ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。また、受験テクニックは扱いませんから高校までで数学が好きだった人にも別の視点を提供できます。ただし、きちんと出席し課題に取り組むことが必要となります。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ベクトル 行列 行列式 レオンチェフモデルへの応用 微分概念 いろいろな関数の微分 逆関数と合成関数 多変数関数 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>大道を行く高校数学 代数・幾何編、橋 謙他著、現代数学社 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社 大学新入生のための数学入門、石村園子著、共立出版 やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分、石村園子著、共立出版</p> <p>その他は進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>経済数学入門、岡部恒治著、新世社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界経済事情		春学期集中	4 単位	モグベル ザファル Moghbe l Zafa r
〔講義概要・学習目標〕 世界経済における今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の基本的な趣旨です。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになれば幸いです。 今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言ってられません。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、ボーダレスに迫って来ます。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で、世界の経済情報に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもありません。このような見地に立って、この講義では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明します。主に、右のテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義を進めます。ただし、「世界経済入門」以降のテーマについては順不同です。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 世界経済入門 <ul style="list-style-type: none"> 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味 現在の世界経済のルールとその期限 GATT・WTOと世界貿易 IMFと国際金融制度 国際収支の仕組みと、日本の国際収支の動向 経済グローバル化の光と影 地域主義と日本の対応：日本型FTAを巡って 開発途上国の実態と戦略 NIES諸国の実態と戦略 アジア通貨危機の正体とは何か ODAは世界を貧困から救えるのか アメリカ経済の行方 石油とその他の一次産品の問題 			
〔成績評価の方法〕 成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。	〔参考文献〕 平成12年版通商白書「グローバル経済と日本の針路」 平成14年版通商白書「東アジアの発展と日本の針路」			
〔教科書〕 宮崎 勇、丸茂 明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史（旧 経済学史Ⅰ）	01	春学期集中	4 単位	熊谷 次郎
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、経済学形成の星雲時代といわれる重商主義と、それを批判して登場してきた古典派経済学を扱う。重商主義は理論としては主義といえるほどの体系性はなかったが、16世紀末から18世紀中葉過ぎまでの約200年間ヨーロッパにおいて支配的であった経済思想・経済政策である。理論的には未熟であっても、重商主義は経済社会を考える際の実に多彩なアイデアやコンセプトを含んでいるので、そうした重商主義の側面を提示したいと考えている。古典派経済学は、アダム・スミス、リカードウ、ジョン・スチュアート・ミルなど18世紀末から19世紀中葉にかけてのイギリスの経済学者が展開した経済学であるが、経済学を学ぶ以上、彼らについて一定の知識をもつことは経済学の基礎文法を知るようなもので、現代経済学の理解にも不可欠であろう。講義の性質上、歴史と深く関係するので、歴史に興味のある諸君の受講をすすめる。	〔講義計画〕 前半はテキストをもとに重商主義について講義する。重商主義を基本的には貨幣的体系の経済学としてとらえたうえで、その多様な経済社会の把握が受講生の現代社会把握の一助になればよいという観点で講義する。 後半は古典派経済学を実物的体系ととられたうえで、資本主義が台頭し、支配的な経済システムとなっていく過程で何が問題であったのかを明らかにすることに力点を置く予定である。			
〔成績評価の方法〕 月に1度の小テスト（20～30分）と期末テストの成績によって評価する。小テストは3回（1回につき100点満点、計300点）、期末テストは1回（700点満点）。合計1000点満点で、600点以上を合格とする。	〔参考文献〕 必要に応じてその都度指示する。			
〔教科書〕 竹本洋・大森郁夫編著『重商主義再考』 日本経済評論社、2002年。2800円。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
経済学史 (旧 経済学史 I)	02	秋学期集中	4単位	熊谷 次郎																								
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>春学期は重商主義と古典派経済学の歴史に焦点を絞った講義をしたが、この秋学期では経済学の歴史を、近世における経済的思考の登場から20世紀前半までにかけて通史的に扱う。経済学はどのようにして誕生したのか、それは他の社会科学や思想やときには文学とどのような関係にあったのか、経済学の理論と現実の社会の動きとはどこまで相互関係にあったのか、経済理論の普遍性と諸国民の利害は経済学の歴史においてどう扱われているのか、経世済民的な経済学と科学的な経済学とはいかなる関係にあったのか、等々の問題を念頭に置きながら、経済学の歴史を概説したいと思う。経済社会に関するさまざまなアイデアを学んでほしい。講義の性質上、歴史に興味のある学生諸君の受講をすすめる。</p>	<p>[講義計画] 以下の順序で講義する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 市場社会の成立と経済学の生誕</td> <td>4. マルクスの経済学</td> </tr> <tr> <td>2. 重商主義</td> <td>5. 後発資本主義国の経済学</td> </tr> <tr> <td>①トマス・マンと貿易差額論</td> <td>①ドイツ歴史学派</td> </tr> <tr> <td>②貿易商人たちの経済論</td> <td>②アメリカ制度学派</td> </tr> <tr> <td>③ウィリアム・ペティと ジョン・ロック</td> <td>③日本の経済学</td> </tr> <tr> <td>3. 古典経済学の成立と展開</td> <td>6. 近代経済学の成立と展開</td> </tr> <tr> <td>①フィジオクラシー (重農主義)</td> <td>①限界革命の経済学者たち ーメンガー、ジェヴォンズ、 ワルラスー</td> </tr> <tr> <td>②デイヴィッド・ヒューム</td> <td>②ケンブリッジ学派</td> </tr> <tr> <td>③ジェームズ・スチュアート</td> <td>③シュンペーター</td> </tr> <tr> <td>④アダム・スミス</td> <td>④ケインズ</td> </tr> <tr> <td>⑤リカードウとマルサス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥J. S. ミル</td> <td></td> </tr> </table>				1. 市場社会の成立と経済学の生誕	4. マルクスの経済学	2. 重商主義	5. 後発資本主義国の経済学	①トマス・マンと貿易差額論	①ドイツ歴史学派	②貿易商人たちの経済論	②アメリカ制度学派	③ウィリアム・ペティと ジョン・ロック	③日本の経済学	3. 古典経済学の成立と展開	6. 近代経済学の成立と展開	①フィジオクラシー (重農主義)	①限界革命の経済学者たち ーメンガー、ジェヴォンズ、 ワルラスー	②デイヴィッド・ヒューム	②ケンブリッジ学派	③ジェームズ・スチュアート	③シュンペーター	④アダム・スミス	④ケインズ	⑤リカードウとマルサス		⑥J. S. ミル	
1. 市場社会の成立と経済学の生誕	4. マルクスの経済学																											
2. 重商主義	5. 後発資本主義国の経済学																											
①トマス・マンと貿易差額論	①ドイツ歴史学派																											
②貿易商人たちの経済論	②アメリカ制度学派																											
③ウィリアム・ペティと ジョン・ロック	③日本の経済学																											
3. 古典経済学の成立と展開	6. 近代経済学の成立と展開																											
①フィジオクラシー (重農主義)	①限界革命の経済学者たち ーメンガー、ジェヴォンズ、 ワルラスー																											
②デイヴィッド・ヒューム	②ケンブリッジ学派																											
③ジェームズ・スチュアート	③シュンペーター																											
④アダム・スミス	④ケインズ																											
⑤リカードウとマルサス																												
⑥J. S. ミル																												
<p>[成績評価の方法]</p> <p>月に1度の小テスト(20~30分)と期末テストの成績によって評価する。小テストは3回(1回につき100点満点、計300点)、期末テストは1回(700点満点)。合計1000点満点で、600点以上を合格とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じてその都度指示。</p>																											
<p>[教科書]</p> <p>田中敏弘編著『経済学史』八千代出版、1999年。3200円。</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済史	01	通 期	4単位	山 田 雄 久
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、日本経済の成長史について、徳川期～明治期における市場経済の発達という視点から、多面的に考察する。</p> <p>現在の日本経済を理解するためには、近世の農村社会において発達する商品流通市場や、政府の殖産興業政策の展開について考え、さらには近代の市場経済社会において資本市場や労働市場が急速に発達するプロセスについて検討する必要がある。このような経済システムの発展によって、日本経済は戦前期から順調に成長を続けることができ、現在のような経済大国としての役割を担うに至ったと考えることができる。</p> <p>講義では、日本経済の基本的システムが成立する徳川期～明治期の経済発展について検討し、市場経済とはいかなる調整機能を有しているのかを歴史的に明らかにしていく。また、時間が許す限り、戦前より経済都市大阪がいかなる役割を果たしてきたのかについて、徳川期～明治期における米穀肥料市場の展開から、具体的にアプローチする予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 幕藩体制下の経済社会 大坂米穀市場の成立 人口・物価史からみた徳川経済 北海産魚肥市場の展開 幕末の経済発展 近代米穀肥料市場の形成 明治政府の財政金融政策 近代産業の成立と企業発展 「植民地」政策と肥料市場 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績により評価する。 講義中に随時レポートの提出をお願いする予定。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社 新保博『近代日本経済史』創文社 石井寛治『日本経済史』東京大学出版会 橋本寿朗『近代日本経済史』岩波書店</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済史	02	秋学期集中	4単位	梅本 哲世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>バブル経済の崩壊後十年以上経過したが、日本経済は依然として深刻な不況の下で苦悩している。このような時期であるからこそ、過去から学び、現在を批判的に考察して未来を展望する作業が必要不可欠となるだろう。</p> <p>この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観する。そのさい、以下の点に注目したい。</p> <p>第1に、日本の「資本主義化」を可能とした条件を明らかにするとともに、そこから生じた矛盾を明らかにすることである。特に、日本資本主義と戦争との関係を考察したい。</p> <p>第2に、日本経済は、第1次大戦中と直後に非常に好景気を経験するが、その反動として1920年の戦後恐慌、27年の金融恐慌が起こり、30年代初頭には昭和恐慌が勃発する。講義では、この過程と現在の日本経済を比較検討したい。</p> <p>歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史の基本概念 2. 幕末の経済と開港 3. 明治維新 4. 殖産興業と松方財政 5. 近代産業の発達－軽工業 6. 近代産業の発達－重工業 7. 日清・日露戦争と日本経済 8. 第1次世界大戦と日本経済 9. 1920年代 10. 昭和恐慌 11. 高橋財政 12. 戦時経済 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験の成績により評価する。 講義の区切りに感想を書いてもらい、成績評価の参考にする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>石井寛治著『日本経済史[第2版]』（東京大学出版会） 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三和良一著『概説日本経済史 近現代』（東京大学出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋経済史		春学期集中	4単位	前 田 治 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス産業革命と各国の対応 2. イギリス資本主義の再編成 3. パクス・ブリタニカの生成と発展 4. 大不況期と独占資本主義 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の小テストと春学期末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理論		春学期集中	4 単位	河 合 勝 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学部生のための情報処理基礎を講義する。つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとは（コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能） 2. 情報社会とコンピュータ 3. コンピュータによる情報の表現 4. コンピュータによる計算の仕組み 5. コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置 6. パーソナルコンピュータの仕組み 7. ソフトウェアの構成 8. オペレーティングシステム 9. パソコン用ソフトウェア 10. コンピュータ・ネットワーク 11. 学内の情報環境について 12. 経済学の研究・学習とコンピュータ1（インターネット資源の活用） 13. 経済学の研究・学習とコンピュータ2（統計処理） 14. 経済学の研究・学習とコンピュータ3（シミュレーション） 15. プログラミング言語の種類と特徴 16. アルゴリズムと流れ図 17. プログラミングの基礎1（データの型と構造） 18. プログラミングの基礎2（効率的アルゴリズムの選択と設計） 19. プログラミング1（データの整列法） 20. プログラミング2（線形探索と二分探索法） 21. 計測と制御 22. 経済学とコンピュータ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法情報学 (旧経済学特講－法情報学)		通 期	4 単位	福 永 正 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報技術の進展にともない、情報はますます多機能化し、その使い道は拡大・伸張の一途にある。その結果、われわれの生活は簡便かつ効率的になる反面、情報をめぐるトラブルは精神的にも経済的にも多発し、それによる影響は深刻化してきた。このような事態に社会的なルールはどう対応しようとしているのか。例えば、個人情報情報をきっちり捕捉され、いつ暴かれるかもしれない人々の精神の平穏の確保、あるいは技術的にいとも簡単に盗用できる知的財産の保護などの要請に、法的な手当ては十分なのだろうか。</p> <p>また、今日の情報にかかわる技術環境に我々はどう向き合っていくべきなのだろうか。例えば、Webを通じて個人があたかも放送局をもてるような状況に、われわれが「心すべき」ことがあるとすれば、それは何なのか。</p> <p>本講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を連携的に学習することを目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会の特質とその諸相 2. 情報と法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人格権としての情報保護 2) 財産権としての情報保護 3) 刑事法による情報保護 3. 情報と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) データの収集・管理と情報倫理 2) 電子メール・Webページと情報倫理 3) セキュリティ技術と情報倫理 4) 情報公開と情報倫理 4. 情報社会における人間像 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テストを行い、学年末の総合テストとともに、これらの結果を総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の進行にあわせて図書館に所蔵されている適当な参考文献(雑誌論文を含む)の探し方を教示するとともに、教科書を補充するための参考資料として法令の条文や判例等をプリントして配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>和田英夫(他著)『情報の法と倫理(改訂版)』(北樹出版、2003)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習Ia (旧 計算機演習)	0 1	秋学期	2 単位	河合 勝彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの基本操作を既に習得済みの受講生を対象としたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

経
済
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習Ia (旧 計算機演習)	0 2	秋学期	2 単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩としてVBA(Visual Basic for Application))を用いたプログラミング作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ検索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算とプログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	03 04	秋 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	村 松 郁 夫
[演習概要・学習目標] あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。	[演習計画] 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法			
[成績評価の方法] 実習課題の提出状況、内容により評価する。	[参考文献] Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。			
[教科書] 毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は必要ない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)	05	秋学期	2 単 位	義 永 忠 一
[演習概要・学習目標] あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。	[演習計画] 1.表計算ソフト基本操作のまとめ 2.マクロの自動記録機能 3.プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4.プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5.複利計算プログラムの作成 6.データ型の設定 7.データ整列プログラム 8.データ探索プログラム 9.計算とプログラムの効率化 10.金融計算プログラムの作成 11.計測と制御 12.C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法			
[成績評価の方法] レポート・テスト	[参考文献] 適宜指示します。			
[教科書] 開講時に指定します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習Ib (旧計算機演習)	01	春学期	2単位	河合 勝彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報資源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習Ib (旧計算機演習)	02	春学期	2単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用についての演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習がテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報資源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データと整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b (旧 計算機演習)	03 04	春 学 期 春 学 期	2 単 位 2 単 位	村 松 郁 夫
[演習概要・学習目標] 経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。	[演習計画] 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析			
[成績評価の方法] 実習課題の提出状況、内容により評価する。	[参考文献] Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。			
[教科書] 毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は必要ない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b (旧 計算機演習)	05	春学期	2 単 位	義 永 忠 一
[演習概要・学習目標] 経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。	[演習計画] 1.新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2.行政機関の経済情報へのアクセス 3.統計資料・調査レポートへのアクセス 4.地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5.経済統計データとは 6.経済統計データの検索と入手 7.経済統計データの整理・グラフ化 8.記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門 9.国民経済計算データによる日本経済の分析			
[成績評価の方法] レポート・テスト	[参考文献] 適宜指示します。			
[教科書] 開講時に指定します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学総論		秋学期集中	4 単位	野田知彦
[講義概要・学習目標] 社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。今年度は可能な限りパソコンを使いたい。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。		[講義計画] 授業中に指示する。		
[成績評価の方法] 2回のテスト		[参考文献]		
[教科書] 「統計学入門」 森棟公夫 新世社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済論		春学期集中	4 単位	鈴木 健
[講義概要・学習目標] 戦後日本の経済システムは、政治（外交）＝軍事上の対米従属を至上命題とする統治システムのもとで、大企業＝大銀行本位の経済システムとして再建・確立されたが、いまそれが内外に累積する諸矛盾によって機能不全に陥っている。90年代以降日本経済が直面する長期不況はその反映にほかならない。日本の経済システムの根幹をなす日本の大企業システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。そこで本講義では、戦後日本の経済システムの根幹をなす大企業システムをとりあげ、その歴史的な概観を行うとともに再編の方向を展望することにする。問題の性格上、それを支える政官財癒着システムとワンセットでとりあげ、統治システムの内部腐蝕と大企業システムの行き詰まりといった問題についても考えてみたい。		[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 週 対米従属的政官財癒着システムの確立 ・第 5 週 財閥から企業集団へ① ・ 財閥から企業集団へ② ・第 6 週 間接金融機構の確立とメインバンクシステム① ・ 間接金融機構の確立とメインバンクシステム② ・第 7 週 戦後企業の支配構造と株式相互持ち合い① ・ 戦後企業の支配構造と株式相互持ち合い② ・第 8 週 高度成長下の大企業体制① ・ 高度成長下の大企業体制② ・第 9 週 高度成長の破綻と大企業体制① ・ 高度成長の破綻と大企業体制② ・第 10 週 バブル膨張下の大企業体制① ・ バブル膨張下の大企業体制② ・第 11 週 バブルの崩壊と大企業体制① ・ バブルの崩壊と大企業体制② ・第 12 週 金融システム危機① ・ 金融システム危機② ・第 13 週 グローバル競争と大企業体制の再編① ・ グローバル競争と大企業体制の再編② 		
[成績評価の方法] <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、その週の講義の総括としてテストを行い、テストの総点で合否を判定する。 		[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・橋川武郎『日本の企業集団』（有斐閣） ・中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社） ・橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会） ・大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、1998年） ・鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年） ・鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、1998年） 		
[教科書] <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、レジュメを用意する。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想史 (旧社会思想史概説)		春学期集中	4 単位	坂 昌 樹
[講義概要・学習目標] 社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的な思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。 学習の重点は、われわれの社会制度のもとにある西欧思想、ならびに日本人の考え方の違いを確認することにあります。思想といえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。	[講義計画] I. 導入：社会思想とはなにか II. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観 III. 個人主義の確立：キリスト教による個人の析出、マキアヴェッリ、ルター IV. 近代国家の構想：ホッブズ、ロック、ルソー、（カント） V. 市民社会の秩序：スミス、（J. S. ミル） VI. （近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想） 講義の進捗状況によっては、上記（ ） つきの思想家や思想を省略することがあります。			
[成績評価の方法] 学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。	[参考文献] 必要があれば、講義中に指示します。 連絡先：（研究室）アンデレ館 7 階 725 室 （tel）0725-54-3131（内線）3725 （Email）ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。			
[教科書] 指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科学入門		通 期	4 単位	大 澤 健
[講義概要・学習目標] 「社会科学」と言われても少しとっつきにくいかもしれませんが、要するに社会の中の様々な問題について考え、それを学問としてまとめたものが社会科学です。 それゆえ、「社会科学」の裏側には「社会問題」の存在があります。そして、われわれが現在暮らしている社会は「市場経済」ですから、社会問題の多くは市場経済の問題として考えることができます。 この講義では、まず、「社会科学」の入り口として様々な「社会問題」に触れてもらいたいと考えています。まずはビデオを見ながら問題の存在を知り、それがなぜ生じるのか、そして、どうしたら解決できるのか、を考えながら「社会科学」としてのものの考え方について知ってもらおうと思っています。	[講義計画] 講義の大半は実際にビデオを見てもらって、考えてもらうことに向けられます。その間に問題へアプローチしていくための考え方を講義していきます。およそ、2回に一回はビデオを見ることになります。 【春学期】1・公害問題、環境問題 2・労働問題 3・市場経済のパワー 社会を「進歩」させるものとしての市場経済 【秋学期】4・不況の発生、失業問題－市場経済と「国家」の役割の変化 5・国家と民族問題 6・国家と市場を越えて－NPOとNGO			
[成績評価の方法] 原則として試験の点数による。ただし、ビデオを見てもらった後に簡単なレポート（感想文）を提出してもらい、それを「加点」要素として評価します。まめにレポートを出しても良いですし、試験で勝負してもかまいません。	[参考文献] 講義の中で適宜指示する。			
[教科書] 用いない。なるべくならば、講義にまめに出席してノートを充実させることを心がけてほしい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		春学期集中	4 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。</p> <p>特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し、分析すること、などを重視したい。</p> <p>まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「狭客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。</p> <p>また、大阪の歴史に関する博物館の見学や大阪のまちを歩くフィールドワークも企画する。</p> <p>全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下のようなテーマを論じる予定。</p> <p>明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に—</p> <p>米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「狭客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配</p> <p>ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 佐藤信・吉田伸之編『都市社会史』（山川出版社、2001年）</p> <p>以上のほか、授業のなかで随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>随時、プリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	0 1	通 期	4 単位	山 本 浩 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業は、利益を獲得することを目的として、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。</p> <p>簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験は年に3回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 ①複式簿記の計算原理（損益法と財産法） ②複式簿記の計算構造 ③勘定と記帳 ④試算表、精算表 ⑤決算</p> <p>後期 ①個別勘定科目の処理—現金、当座預金 ②個別勘定科目の処理—商品 ③個別勘定科目の処理—売掛金、買掛金 ④個別勘定科目の処理—手形、その他の勘定 ⑤決算手続きと決算整理事項</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定3級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験3級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正、徐龍達、堀友章、全在紋共著『現代簿記論』中央経済社 『簿記検定試験 段階式新ワークブック商業簿記3級』税務経理協会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	02	秋学期集中	4 単位	近 藤 健 司
[講義概要・学習目標] 企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。 本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。 簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。	[講義計画] 1 複式簿記の計算原理・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合 2 複式簿記の計算構造・取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表、決算、 3 勘定科目各論・現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、 4 決算・決算整理、8桁精算表、損益計算書、貸借対照表 5 帳簿組織・伝票式会計			
[成績評価の方法] 定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。	[参考文献] 新井清光・渡部裕巨（編著）「新検定簿記講義3級（平成15年版）」 （中央経済社）			
[教科書] 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」（中央経済社） 新井清光・渡部裕巨（編著）「新検定簿記ワークブック3級」（中央経済社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（外国直接投資と発展途上国）		通 期	4 単位	か 何 イ 為
[講義概要・学習目標] 世界における直接投資の大部分は先進国間での直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けることに成功した。直接投資は受け入れ国の発展途上国に対してどのような影響を与えているだろうか。本講義では、中国を中心に考えたい。	[講義計画] 前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義及び発展途上国におけるその経済的な役割に関する理論を講義する。 後期：中国経済における直接投資のインパクトについて概括的な説明を行う。			
[成績評価の方法] 評価は出席、レポートをもって行う。	[参考文献] 適宜指定する。			
[教科書] 使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する。				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経済学特講（証券の基礎知識） 経営学特講（証券の基礎知識） （旧経営・商学特講（証券の基礎知識））		春学期	2単位	木村二郎
[講義概要・学習目標] 本講義は、日本の代表的証券会社である野村證券株式会社の専門講師陣によるインテグレーション講座である（2002年度から開講）。 現代の経済において証券市場が果たす役割はきわめて大きいものであるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースに分かりやすく解説してくれるのが、この講義の眼目である。証券市場と証券投資の現実を知ること、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけではなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。		[講義計画] 次のような内容を予定している。ただし、ガイダンス以外は、諸般の都合により、変更されることがある。 1. ガイダンス、2. 経済情報の捉え方、3. 経済成長と金融資本市場について、4. 証券投資のリスク・リターンについて、5. 株式市場の役割と投資の基礎知識について、6. 債券市場の役割と投資の基礎知識について、7. 投資信託の役割とその仕組みについて、8. ポートフォリオ・マネジメントについて、9. 市場のグローバル化と証券投資について、10. 資産運用とライフプランニング、11. 資本市場における投資家心理について、12. 個人投資家と証券ビジネスについて		
[成績評価の方法] 期末試験をベースに評価する。		[参考文献] 氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社、2002年		
[教科書] 野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善株式会社、2002年				

経
済
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（経済学検定試験対策講座 A）		春学期	2単位	中村勝之
[講義概要・学習目標] 昨年3月から半年に一度実施されている『経済学検定試験（ERE）』によって、経済学教育に対するある程度の客観的評価が整備されたといえる。第1回の問題を見る限り、公務員試験のように受験者を落とすために「引っかけた」問題は少なく、むしろ、オーソドックスな出題が多かった。その意味でEREは、基礎科目（基礎理論A、原論I Aなど）の定期試験とは別に、自分がどこまで経済学を理解しているかを測るチャンスを提供してくれている。他方で、ERE対策の勉強は、公務員試験・公認会計士試験・FP（ファイナンシャル・プランナー）などの資格試験対策の基礎も与えてくれるだろう。 そこでこの講義では昨年度と同様、EREの出題範囲（マイクロ・マクロ・統計・財政・金融・国際経済・経済事情）の中から、出題頻度の高い「マイクロ経済学」について、基礎科目のおさらいを兼ねて解説していくことにする。なお講義の進め方は、基礎科目との重複を避ける意味で、過去のEREで出題された問題の解答解説を中心にした「問題演習」としたい。ただしこの講義の受講のみで、経済学に対する理解は深まらない（その手助けをするのが講義である）ので、積極的に復習をしていただきたい。				
[成績評価の方法] ①出席は基本的にとらない。学生の自主性に任せる。 ②講義中に5～10回程度小テストを実施する。 ③期末試験と小テストの総合評価で最終的な評価を行う。		[参考文献] ・高橋知也〔2002〕『私大文系のマイクロ経済学』中央経済社 ・釜江廣志、大塚晴之〔2002〕『マイクロ経済学基礎演習』同文館出版 ・大塚晴之〔2002〕『実践経済学』同文館出版		
[教科書] 使用しない。適宜資料を配布する。				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学特講 (経済学検定試験対策講座 B)		秋学期	2 単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前期（経済学検定試験 ERE 対策講座A）を引き継ぐかたちで、ERE 出題範囲のなかから、マクロ・統計の分野を中心に講義をすすめていく。いずれの分野においても、問題演習を中心にして理解を深めていく。時間的に余裕があれば、他分野についても、ゲスト講師を招いて概説をお願いしたいと考えている。ERE の出題形式・内容は、当面、公務員試験（地方上級、国家 I,II 種）と同様のものになると予想されるが、いずれにしても、付け焼き刃の知識では歯がたたず、日頃の学習の積み重ねが必須である。講義では、受講者の自学自習のためのガイドラインを示すことはできるが、受講者自らの努力がなければ成果は期待できない。相応の予・復習が必要となることを覚悟したうえでの受講をお願いしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ERE や公務員試験の問題演習を中心にした学習</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の小テストと学期末試験による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指定する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。プリントを配布する。2002 年度講義資料は http://rio.andrew.ac.jp/araki/ERE-02.html を参照のこと。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
経済学特講「職業を考える」		春学期	2単位	木村二郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現役の職業人（本学卒業生を含む）から、業界の現状、企業組織の構図、仕事内容の多様性など体験を交えて講義していただくことを通して、働くことの実際を学ぶとともに、学生自らの人生における職業の意味を考えさせることが、この講義の主要な目的である。また、この講義を通じて、「経済的自立」・「自己実現」・「社会的貢献」という働くことの意味を学ぶだけではなく、自分の進路を考える上でのヒントや履歴書の書き方など、実際に就職活動をする上でも役に立つ知識も身につけていくように工夫する予定である。 この講義の性格からして、実際の就職活動を始める前の3回生以下の受講が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>次のような内容を予定している。ただし、講義紹介以外は、諸般の都合により、変更されることがある。 「講義紹介」、「各業界（建設・薬品・自動車・教育・百貨店・旅行・金融・製菓・ファッション・リクルート）・役所・NPOなどにおける職場の現状紹介」、「新聞を読む」、「履歴書の書き方」など12回を予定。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テストと期末試験などをベースに評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (アメリカ産業論)		通 期	4 単位	富 澤 修 身
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>寡占企業による大量生産システムの行き詰まりは、アメリカ企業の経営困難だけでなく、国民経済と市民生活の悪化をも生み出した。1990年代にはいと日本企業の自信喪失と対照的なアメリカ企業のパフォーマンスの回復に世界の注目が集まったが、これもネットバブルの崩壊により、再度アメリカの経済と産業は混迷の中にある。</p> <p>講義では、アメリカ経済と産業の200年の歴史を踏まえつつ、アメリカ産業の盛衰と今を論じる。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. アメリカ繊維産業 3. 独占的産業 4. アメリカ自動車産業 5. アメリカ情報通信産業 6. 1990年代のアメリカ経済と産業 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>		
<p>[教科書]</p> <p>富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	0 1	通 期	4 単位	駿 河 輝 和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代経済における市場の果たす役割を理解すること、公害や所得分配の不平等などの市場の限界について理解することを目的としている。それと同時に現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することも目標である。講義の内容は、消費者行動の理論、生産者行動の理論、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗、ゲーム理論、情報の不完全性である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期は、需要と供給、消費者行動、生産者行動など主として経済主体の行動分析について講義する。 後期は、競争市場と効率性、消費者余剰と生産者余剰、独占市場、ゲーム理論、寡占市場、市場の失敗、情報の非対称性など市場の働きについて講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の試験</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>井堀利宏著『入門ミクロ経済学』新世社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	0 2	春学期集中	4 単位	中 村 勝 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ミクロ経済学」という分野を一言で言うならば、ある単位で区切った「市場」(これは地域単位や国・世界で区切ってもかまわない)における人々の行動やその構造などを、一消費者や一生産者といった「(経済)主体」の合理的行動から説明しようとする分野である。この分析手法は、同じ近代経済学に属する「マクロ経済学」と対照的ではあるが、別にそれはよし悪しの問題ではなく、議論する目的に応じたものだと考えてもらったら差し支えない。</p> <p>そこでこの講義では、ミクロ経済学の基本的な部分を解説していくことにする。具体的には講義計画を参照していただきたいが、講義の半分以上を「完全競争市場」に関する議論を行い、その後現実に即した「不完全競争市場」などの応用分野について解説していきたい。ただし応用分野自体はきわめて広範囲にわたっている(貿易や、財政、環境[公害]、医療の問題など)ので、私の専門とする「企業金融論」という分野を、情報の経済学を交えながら解説していくことにしたい。</p> <p>ただしミクロ(およびマクロ)経済学の分析には、みんなの大得意(?)とする「数学」が積極的に利用されている。本講義では高校初期までの数学を用いて講義する場合があるが、大抵は数式の展開は利用せず、図形を多用して講義していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序論.経済数学入門</p> <p>I.完全競争市場</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.市場の基本構造(需要と供給) 2.消費者行動 3.企業行動 4.経済厚生およびパレート最適 <p>II.情報の経済学 ~企業金融論入門~</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席は基本的にとらない。 ②授業中に5~10回程度小テストを行う。 ③中間試験、期末試験および小テストを総合して評価を行う。 	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	0 3	秋学期集中	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学の基礎理論について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①家計(消費者)・企業(生産者)といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか ②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか ③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるのか <p>といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。</p> <p>ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となる。本講義では、複雑な数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明するが、中学校程度の数学を用いた問題演習も行う。なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の基本概念 2. 需要と供給 3. 消費者行動の理論 4. 生産者行動の理論 5. 市場均衡と経済厚生 6. 独占の理論 7. 生産要素市場 8. 不確実性と情報 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験および学期末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	0 1	通期	4単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにはほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。 講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス—貿易黒字と貯蓄— 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、リカード命題 10、長期の最適化と財政政策の有効性 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式(命題に対する解説)をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。 			
<p>[教科書]</p> <p>惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	0 2	春学期集中	4単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。 経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。 もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくりに進めていくつもりである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>各章2～3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済学への導入 2 国民所得の概念 3 国民所得の決定とその応用 4 貨幣分析 5 国民所得の変動(変動と成長) 6 マクロ経済政策(総需要管理政策) 7 反ケインズ派の経済学 8 物価変動(インフレーションと失業) 9 所得分配 10 国際貿易 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>サムエルソン(著)『経済学(第13版上下)』(岩波書店、1992、1994年)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年4月予定)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-2 (マクロ経済学)	03	秋学期集中	4単位	矢根 真二
<p>[講義概要・学習目標] マクロ経済とは、日本やアメリカの国民所得・金利・失業・物価・為替などの動きです。「成長率鈍化」や「円高進行」といった形で、毎日のようにテレビや新聞で報道されています。それではどうして好況や不況、円高や円安が起きるのでしょうか？ なぜ、そうした変動が起こると困るのでしょうか？ さらに、どうすれば問題を解決できるのでしょうか？ こうした課題に答えるために、様々なマクロモデル（マクロ経済を把握するための模型）が開発されています。マクロ経済学の目的は、マクロモデルの学習を通じて、マクロ経済の変動の原因と適切な政策を解明することです。 基本的なマクロモデルは万国共通ですから、テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも、株式市場を動かすニュースや経済財政白書などの考え方をよりよく理解できるようになるはずで。</p> <p>ただしマクロモデルは現代経済学の基本的なパーツですから、ただ丸暗記してもダメで、現実を抽象化して論理的に考える科学的思考が必要です。実際、1年後の成長率やインフレ率を予測・説明するには簡単なグラフや数式によるモデルが必要になりますから、経済学のための数学入門や経済学基礎理論A（ないし経済原論IA-1）の知識が基本になります。もっとも講義では、たとえ中学程度の知識でも必要な道具はすべて解説しますから不安になる必要はありませんが、記号や数字のアレルギーだけは解消しておきましょう。</p>	<p>[講義計画] テーマ： マクロモデル入門 テキストは豊富な事例とグラフを中心とした入門経済学レベルの内容なので十分に独習可能でしょうから、講義ではグラフの背景にある簡単な基本モデルの理解と操作を中心に解説するのが特徴です。モデル思考に慣れ親しむことによって、テキストの諸例に多用されているミクロ経済学や財政金融政策との関連を効率的に理解し、同時に公務員試験やEREへの基礎力を養うためです。講義内容はテキストにほぼ沿って以下のように進める予定です。 (1) マクロ経済学とは？ (2) マクロモデルの基本： マクロモデルの諸類型 (3) 豊かさを見るメガネ： 実質GDPと日本の経済成長 (4) 長期趨勢を捉えるメガネ： 新古典派的な伸縮価格モデル (5) 短期変動を捉えるメガネ： ケインズ派的な固定価格モデル (6) 財政・金融政策の有効性： 短期・長期・国際経済における政策効果 (7) インフレーションと失業： 市場・予想・政府の役割 (8) 現代のマクロ・トピックス： 現代マクロ経済学と日本経済の現状 特にテキストと講義の内容の相違は短期のケインズ派の説明で、テキストでは超初心者向けということもあってIS-LMモデルやマンデル・フレミングモデルは簡単に触れられているだけですが、日本では依然として各種試験の中心項目であり財政金融政策の基本に据えられているので明示的に詳しく説明する予定です。詳細や関連文献は下記の教員HPを参照して下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法] 試験の総合計点が6割以上なら必ず合格とする予定</p>	<p>[参考文献] ●マクロモデルのベースは入門経済学（経済学基礎理論A）などで学習した「市場の均衡モデル」ですから、未履修者は市場均衡の決定や変化のメカニズムだけでもテキストの第1部の復習部分などで学習しておきましょう。 ●これはグラフで描けば中学時代に学習した2直線の交点の問題レベルですが、数学が苦手な経済学のための数学入門なども履修していない方は、図書館などでドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学 上』シーエービー出版の第1章・2章だけでも目を通せばやさしい解毒剤になるでしょう。 ●実際の景気や物価のデータの所在や参考文献などの詳細については、教員HP（http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/）を参照して下さい。</p>			
<p>[教科書] ●マンキュー（2001）『経済学Ⅱ マクロ編』東洋経済新報社 ⇒科学・モデル・関数・競争・市場・均衡といった現代経済学の基礎概念を忘れてしまった人でも、テキストの第1部に要約してあるとても便利な読みやすい超初心者向けのマクロの入門書ですから、必ず一度は目を通しましょう。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	01	春学期集中	4単位	滝田 和夫
<p>[講義概要・学習目標] マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくことで講義が理解し易いであろう。</p>	<p>[講義計画] I. 経済学の対象と方法 II. 市場経済 1. 商品経済 2. 貨幣経済 III. 資本とその増殖 1. 貨幣の資本への転化 2. 絶対的剰余価値の生産 3. 相対的剰余価値の生産 IV. 価格と利潤 V. 資本の再生産と蓄積 1. 資本の蓄積過程 2. 社会的総資本の再生産過程 3. 利潤率の傾向的低下法則</p>			
<p>[成績評価の方法] 試験の成績による。</p>	<p>[参考文献] 置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房 森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（東洋経済新報社）</p>			
<p>[教科書] 平井・北川・滝田（共著）『経済原論』（有斐閣）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 原 論 I B	0 2	秋学期集中	4 単位	松尾 純
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入りますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。</p> <p>本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、百数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における“再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前半) (5回程度)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。 2. マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。 3. 労働疎外論とは何か。 4. マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。 5. マルクスが描いた社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」の歴史。 <p>(後半) (各項目1回で進めていって20回程度)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の対象と方法。 2. 商品論Ⅰ。 3. 商品論Ⅱ。 4. 貨幣論Ⅰ。 5. 貨幣論Ⅱ。 6. 貨幣の資本への転化論。 7. 資本の本源的蓄積。 8. 剰余価値論Ⅰ。 9. 剰余価値論Ⅱ。 10. 資本蓄積論Ⅰ。 11. 資本蓄積論Ⅱ。 12. 資本の流通過程。 13. 利潤論Ⅰ。 14. 利潤論Ⅱ。 15. 商業資本論。 16. 信用論Ⅰ。 17. 信用論Ⅱ。 18. 地代論。 19. 講義の総括。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績の評価は、基本的に学期末試験の結果にもとづいて行う。受講者が適度な限度内であれば、授業時間内に小テスト等を行って成績評価の参考とする。出席率は一切考慮しない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考書は授業時間中に適宜お知らせします</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義概要の趣旨から理解されるように、市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能であれば、講義要旨・参考資料等を配布するよう努力する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 原 論 II		秋学期集中	4 単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。</p> <p>近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。</p> <p>1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。</p> <p>必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I 所得分配 (理論、実態および政策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 所得分配の基礎理論 3 所得分配率 4 人的分配の分析概念 5 所得・資産分配の実態 6 分配に関する政策の現状と問題点 <p>II マクロ経済学の潮流</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ケインズ経済学 国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策 2 反ケインズ派経済学 フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学 3 新ケインズ派理論 4 新古典派リアル・ビジネスサイクル理論 5 おわりに (マクロ経済学の展望) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義の中で指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年4月予定)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済成長論		春学期集中	4 単位	西川 憲二
[講義概要・学習目標] 西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。今日では、各国が世界的な規模で経済競争にさらされるようになった。 この講義では、西欧諸国の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展の過程を検討して、経済発展の歴史的教訓を考察する。そして、経済学が経済発展をどのようにとらえているのかを簡単な経済成長理論モデルをもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力として技術革新の重要性を論じる。	[講義計画] 経済成長とは 近代西欧とアメリカの経済発展 経済成長理論 日本の高度成長と現状			
[成績評価の方法] 出席、レポート、学期末試験	[参考文献] キンドルバーガー 「経済大国興亡史（上下）」 岩波書店 2002年 各3800円 後藤晃 「イノベーションと日本経済」 岩波新書 2000年 660円			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
景気循環論		秋学期集中	4 単位	滝 田 和 夫
[講義概要・学習目標] バブル崩壊から十数年、日本経済は小さな景気循環を繰り返しながらも、全体としては停滞的・慢性不況的に推移してきた。いつまでたっても減らない銀行の不良債権、この数年のマイナスの名目成長率に見られる深刻なデフレ経済、流通・建設・金融業界を中心とする大手企業の経営破綻、そして相次ぐ工場閉鎖とリストラの嵐……。 学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。そこでは、最近の均衡景気循環論についてもできる限り言及するつもりであるが、力点はあくまでも基礎的な景気循環論の把握に置き、具体的にはヒックスの景気循環論の十分な理解あたりを目標としたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論ⅠA-2を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。	[講義計画] 1. 景気循環とは何か 2. 景気循環論の基礎 3. 乗数・加速度モデル 4. 不規則衝撃の理論 5. 非線型景気循環論 6. 均衡景気循環論			
[成績評価の方法] 試験の成績による。	[参考文献] J. R. ヒックス (著) 古谷弘 (訳) 『景気循環論』 (岩波書店) M. カレッツキ (著) 宮崎義一・伊藤光晴 (訳) 『経済変動の理論』 (新評論)			
[教科書] 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』 (実教出版社)				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
計量経済学		春学期集中	4 単位	荒木英一
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。この講義では、コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>記述統計のいろいろ 最小二乗法、決定係数 統計的推定と検定の考え方 回帰分析</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>授業中の小テストと学期末試験による</p>	<p>【参考文献】</p> <p>適宜に指定する</p>			
<p>【教科書】</p> <p>使用しない。プリントを配布する。2002 年度講義資料は http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu02.html を参照のこと。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国民経済計算論		秋学期集中	4 単位	桂 昭政
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、経済の動き、特に日本経済の動きを理解するうえで不可欠と言える。本講義では、国民経済計算の基礎知識について学習するが、2000 年末からわが国の国民経済計算データが 1993 年に改訂された SNA に（すべてではないが）準拠するかたちで公表されることになったことを踏まえて、93 SNA の構造と特徴についても言及する。それとともにわが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも併せて行っていきたいと考えている。なお、理解を深めるために可能な限りデータのパソコン処理の実習を行っていききたいと思っている。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>1. SNA と日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面を中心に－ 2. SNA と日本の経済循環－ストック（資産）の側面を中心に－</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>武野秀樹『国民経済計算入門』（有斐閣） 中村洋一『SNA 統計入門』（日本経済新聞社） 浜田浩児『93 SNA の基礎』（東洋経済新報社） 桂 昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）</p>			
<p>【教科書】</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 政 策		春学期集中	4 単位	津 田 直 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度や秩序のレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。最初は経済政策論の思想や一般論を扱い、授業の後半は経済政策論の各論や日本経済における具体的問題を扱う。</p> <p>他の科目との関係について。経済理論の知識が必要となるので経済原論ⅠAを履修していることが望ましい。</p> <p>毎回、講義内容を要約した資料を配付する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策論の対象と課題 2. 新自由主義と21世紀体制思想 3. サードエコノミーと社会的経済 4. 経済政策の目標と手段 5. 市場機構と経済政策 6. マクロ経済理論 7. マクロ経済理論と財政・金融政策 8. 日本の財政構造 9. 90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派 10. 金融政策 11. 雇用問題と政策 12. 規制緩和と政策 13. 社会保障と政策 14. 資源・環境問題と政策 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストによる評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の中でそのつど知らせる</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財 政 学	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4 単位 4 単位	藤 田 香
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>財政赤字をどうするのか？ 日本の財政赤字は、他のOECD諸国と比較しても最悪の状態にあるといえる。その一方で、福祉や年金、景気・雇用対策などに対する財政の多様な機能も求められており、国の財政は複雑化している。政府の財政活動は、国内問題を考慮することはもとより、経済活動がそうであるように、その制度や政策も国際化、あるいはグローバル化との対応の中で位置づける必要がある。</p> <p>本講義では、国の財政の仕組みや実態について、国際比較も含め、図表や統計を交えながら検討し、財政がもつ現代的な問題を含めて包括的に取り上げる。</p> <p>本講義の目標は、毎日の暮らしに関係する公の仕事について、そのサービスを提供するために、国がどのように収入をあげていくのか、国民が負担する租税とは、どのような仕組みであるのか等、について受講生自身が理解を深め、その問題についてとるべき方策を受講生自身が考えることです。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代財政と財政学 2 世界の財政 3 日本の財政 4 財政学説の展開 5 日本の予算・財政システム 6 公共投資と財政 7 社会保障財政 8 財政赤字と公債理論 9 財政投融资 10 環境と財政 <p>進行状況によっては、別のテーマも取り扱う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テスト、レポート、期末試験による総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の中で、適宜知らせます。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>第一回目の講義で知らせます。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
金 融 論		秋学期集中	4 単位	木 村 二 郎
<p>[講義概要・学習目標] 「総合デフレ対策」「ゼロ金利政策」「ペイオフ解禁」「不良債権問題」などという言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。 「貨幣」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編や金融政策の持つ意味は何かを解明する予定である。 学習の目標としては、金融の基本的な理論と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。</p>		<p>[講義計画] テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。</p>		
<p>[成績評価の方法] 小テストと学期末試験の総合評価。</p>		<p>[参考文献] 小塩隆士著『新・日銀ウオッチング』日本経済新聞社、2000年 日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2000年 加藤出『日銀は死んだのか：超金融緩和と政策の功罪』日本経済新聞社、2001年</p>		
<p>[教科書] 関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年</p>				

経
済
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 数 学		秋学期集中	4 単位	藤 間 真
<p>[講義概要・学習目標] 小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。 しかし、ベストセラーとなった『分数のできない大学生』の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。 本講では、「経済学のための数学入門」程度の予備知識を持つ学生に、経済学への応用を視野に入れながら、右記の項目について説明した後問題演習を行ないます。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。 「経済学のための数学入門」未履修者は、岡部恒治著『経済数学入門』（新世社）を確認して、レベルを確認してください。</p>		<p>[講義計画] ・グラフの応用 ・関数 ・微分 ・行列とベクトル ・線形計画法 ・積分 ・微分方程式と差分方程式 進行状況によっては他の事項も扱う。</p>		
<p>[成績評価の方法] 学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献] 入門・経済数学(下)、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版 大道を行く高校数学 代数・幾何編、橋 謙他著、現代数学社 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社 経済学のための数学入門、神谷他著、東京大学出版会</p>		
<p>[教科書] 入門・経済数学(上)、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版</p>		<p>その他は進行状況に応じて指示する。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済統計		春学期集中	4単位	桂 昭政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別のミクロ統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 国民所得統計の特質と利用 2. 産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社） 木下・土居・森編『統計ガイドブック 社会・経済（第2版）』（大月書店）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩井・泉・良永（編著）『情報化社会の統計学（改訂版）』（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II		秋学期集中	4単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい： <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・情報センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。 </p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習の提出物を中心に総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ その他は進行状況に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>10日でおぼえるJava入門教室、丸の内とら著、翔泳社</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済情報処理演習 II (旧 経済学特講 (経済情報処理演習 II))		秋学期集中	4 単位	荒木英一
[演習概要・学習目標] 経済分析におけるコンピュータ活用法について、実例をふんだんに盛り込みながら演習をすすめていく。まず、景気動向指数、産業連関分析やマイクロデータによる横断・パネル回帰などを題材にして、講義・演習を行う。 次に、計量経済モデルの構築に焦点をあてて、経済学におけるモデル化と経済予測の手法をじっくりと学ぶ。経済原論で学ぶ理論モデルと計量経済学で学ぶ統計手法が組み合わされて、経済分析・経済予測が行われていく様子を、実例で演習してみよう。 実習環境は受講者数や講義の流れに応じて変更するが、受講レベルとしては、経済情報処理演習 Ia,b の内容を最初の数回でざっと復習するといったレベルからはじめたいと考えている。	[演習計画] 記述統計の手法いろいろ クロス集計 (χ 二乗値、連関係数) 景気動向指数 (季節調整プログラムの紹介を含む) *産業連関分析 *企業財務データのクレンジング 回帰分析に関する概説 マクロ経済モデルに関する概説 ガウス・ザイデル法とニュートン法 動学モデル推計手法 日本経済のモデル・シミュレーション (* のトピックは、講義の流れに応じて省略する可能性があります)			
[成績評価の方法] 授業中の課題提出と学期末試験による		[参考文献] 例えば「経済モデルの技法-モデルで遊ぼう-」(C. アーモン, 日本評論社) など (購入する必要は無し)		
[教科書] 使用しない。プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		春学期集中	4 単位	竹 原 憲 雄
[講義概要・学習目標] わが国の都市財政のしくみ・特徴・課題について検討する。 現代は都市の時代といわれている。ことに戦後わが国の都市は先進国のなかでも希な急膨張をとげてきたが、1990年代からの日本経済の低迷のなかで、いま大きな曲がり角に立たされている。さらには、2000年4月の「地方分権一括法」によって、都市行財政そのものも見直しを迫られている。巨大な都市経済・都市行財政の行方が注目されている。 だから、都市財政の実態を明らかにすることは、21世紀のわが国の経済社会を知るうえでの焦点の1つになっている。それはまた、これからの国際化・高齢化・分権化における市民生活を考えるうえでの重要な課題でもある。 なお、付論として、大都市圏に組み込まれている地元和泉市の財政分析も考えている。	[講義計画] 1. 都市財政の現状 2. 「地方分権一括法」の検討 3. 都市の財政需要 4. 都市の財政収入 5. 都市税制 6. 都市財政と財政調整制度 7. 国庫補助金と都市財政 8. 地方債と都市財政 9. 和泉市財政の現状			
[成績評価の方法] 講義内容に関するレポートの提出、期末の試験により総合評価する。		[参考文献] 講義の中で紹介する。		
[教科書] 使用しない。				